

障害者自立支援機器等開発促進事業

**令和5年度
ニーズ・シーズマッチング強化事業
事業報告書**

令和6年4月

公益財団法人テクノエイド協会

目次

I. 事業報告	3
A. 背景.....	4
B. 目的.....	4
C. 実施内容.....	5
(1) 企画委員会の設置.....	5
(2) 本交流会の企画・開催.....	5
(3) Web開催の内容.....	7
(4) ニーズ・シーズマッチング地域交流会（ATAサテライト）の開催.....	8
(5) 交流会開催後のフォローアップ.....	9
(6) ニーズ・シーズの情報収集・発信.....	11
(7) 実施スケジュール.....	11
D. 実施結果.....	13
(1) 企画委員会の開催結果.....	13
(2) 出展者の募集から決定までのプロセス.....	14
(3) 交流会の周知.....	17
(4) Web開催及び会場開催のイベント内容.....	22
(5) ニーズ・シーズマッチング地域交流会（ATAサテライト）の実施結果.....	31
(6) 交流会開催後のフォローアップの成果.....	46
(7) ニーズとシーズの情報収集発信の結果.....	49
(8) 開催結果及びアンケート結果.....	51
E. 考察及び結論.....	57
(1) 成果等について.....	57
(2) 考察、結論（今後の課題と解決策について）.....	57
II. 別添資料	59
A. 交流会関係資料.....	60
B. 併催イベント講演資料.....	60
(1) 出展企業等募集要項.....	60
(2) 交流会チラシ.....	60
(3) 公式パンフレット.....	60
(4) 地域交流会（ATAサテライト）チラシ.....	60
(5) アンケート用紙.....	60

I . 事業報告

A. 背景

障害者の自立を支援する「障害者自立支援機器（以下「支援機器）」は、ノーマライゼーションの理念に基づき、障害者の活動や参加を促す極めて重要な役割を果たすものであり、障害者のニーズを捉えた製品開発と普及の促進が求められている。

一方、障害者福祉の現場において、真に必要なとされる支援機器を開発するためには、機器開発の着想段階からユーザーや支援者の「ニーズ」と開発や研究者等の「シーズ」をマッチングすることが大切であり、決してシーズ志向型の開発とならないよう、障害者の置かれている状態は勿論のこと、現場の課題やニーズを的確に捉えた支援機器の開発に繋げる取り組みが重要である。

B. 目的

本事業では、支援機器のユーザー側が持つニーズと開発側が持つシーズのマッチングを目的とした「ニーズ・シーズマッチング交流会（以下「本交流会）」を企画・開催し、実用的な支援機器が開発されるよう、試作機等を用いて、ニーズ側とシーズ側が膝を交えて意見交換できる場を設けるとともに、効果的なモニター評価等を行う機会を創出することとした。

【障害者自立支援機器等開発促進事業の概略図】



C. 実施内容

(1) 企画委員会の設置

支援機器に関する障害関係団体及び、医療・福祉専門職等から構成する、企画委員会を当協会に設置し、本交流会のコーディネート機能及び体制を構築した。

企画委員会では本交流会の企画及び運営に係わる審議を行い、より良い交流会等の実現に向けた検討を行うこととした。また、本委員会に構成する障害関係団体の皆様には、①支援機器に関する課題やニーズをご提供いただくこと②本交流会では、ニーズ側とシーズ側の交流が活性化するよう積極的にご参加いただくこと③交流会の成果を着実に支援機器開発に繋げるため、開発企業の希望に応じて相談やアドバイス支援を行うこととし、関係する障害者等をご紹介いただくこととした。

【ニーズ・シーズマッチング交流会 企画委員会 委員名簿】

(委員)

(五十音順・敬称略)

氏名	所属
逢坂 忠	社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合
安藤 信哉	公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会
小川 光彦	一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
岸川 忠彦	一般社団法人 日本ALS協会
小磯さおり	川崎市社会福祉事業団 れいんぼう川崎
小山万里子	ポリオの会
佐藤 加奈	社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会
園田 尚美	NPO法人 日本失語症協議会
橋間 信市	社会福祉法人 全国盲ろう者協会
増澤 高志	ASD（自閉スペクトラム症）生活環境研究会

(オブザーバー)

(敬称略)

氏名	所属
南須原美恵	経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室
只野 肇	国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 イノベーション推進部 プラットフォームグループ
丸山 誠二	国立研究開発法人 情報通信研究機構 デプロイメント推進部門 情報バリアフリー推進室
中村 美緒	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
田中 匡	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
辰巳 昌嵩	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室

(2) 本交流会の企画・開催

障害当事者のニーズをよりの確に捉えた支援機器開発の機会を創出すべく、本交流会を開催した。会場は大阪と東京で行うこととし、Web開催（オンライン上での意見交換）については、令和5年10月～令和6年1月末まで昨年度同様にオンラインプラットフォーム

ムを活用して開催することとした。

会場開催では、開発企業が試作中の支援機器等を会場へ持ち込み、障害者及び介護者をはじめ、企業、研究者、開発を支援する機関等が膝を交えて意見交換等を行う場を設けることとした。また、期間中の併催イベントを各種企画した。

本交流会の対象者は以下とし、ニーズ側、シーズ側の分類とした。

※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者 等

※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関 等

① 開催日程及び内容

● Web開催

【開催日】令和5年10月1日（日）～令和6年1月31日（水）

【配信会場】テクノエイド協会 Web交流プラットフォーム内

【企画内容】

- ・オンラインにて出展者情報及び支援機器の紹介動画等の配信
- ・掲示板、問い合わせフォームを使用した意見交換の実施
- ・開発助成金事業の紹介、各種支援機器開発に係る研究報告等の配信

● 大阪会場

【開催日】令和5年11月27日（月）～29日（水）3日間

【時間】初日13:00～17:00、9:00～17:00 ※最終日16時

【会場】OMM（2階展示Aホール）

【企画内容】

- ・オンラインにて出展者情報及び支援機器の紹介動画等の配信
- ・掲示板、問い合わせフォームを使用した意見交換の実施
- ・開発中の試作機等の展示及び体験、意見交換の実施
- ・会場にて講演の実施
(基調講演、特別講演、開発助成金事業の紹介、開発動向最前線)

● 東京会場

【開催日】令和5年12月12日（火）～14日（木）3日間

【時間】初日13:00～17:00、9:00～17:00 ※最終日16時

【会場】東京都立産業貿易センター浜松町館（5階展示室）

【企画内容】

- ・オンラインにて出展者情報及び支援機器の紹介動画等の配信
- ・掲示板、問い合わせフォームを使用した意見交換の実施
- ・開発中の試作機等の展示及び体験、意見交換の実施
- ・会場にて基調講演等の実施
(基調講演、開発助成金事業の紹介、関係機関の取り組み、地域交流会成果発表、開発促進事業成果報告)

【大阪会場 外観】



【展示ホール】



【東京会場 外観】



【浜松町館 展示室】



② 出展企業等の募集

出展要項を作成のうえ、60か所程度、一般募集することとした。

Web開催の参加は必須とする。※Web開催のみの参加は認めないこととした。

- ・Web開催 80企業程度
- ・大阪開催 50企業
- ・東京開催 60企業

(3) Web開催の内容

本交流会専用サイト内に、「Web交流プラットフォーム」を設け、出展事業・機器を紹介する動画の視聴、問い合わせフォーム及び掲示板を利用した出展者の意見交換、講演の常時配信が視聴できる仕組みを構築した。

また、Web交流プラットフォームは、ログインは不要とし、多くの方々がアクセスしやすい仕組みとした。

【Web交流プラットフォーム、出展者ページイメージ】



【交流会での動画配信】

- Web交流プラットフォーム（交流会の専用ページ）をWeb上に設け、出展者の個別ページにて、開発中の製品紹介、対象者、機器の使用方法、活用方法等の内容を盛り込んだ10分以内の動画又は、音声や動画が入ったPowerPointを任意で掲載し、ニーズとシーズの交流を推進することとした。
- 出展企業等一覧は、Web交流プラットフォーム上で各障害分野別やフリーワードでの検索を可能とした。なお、動画はサーバー容量の都合上、YouTubeのサイトへ移動して動画の閲覧ができるようにした。
- Web開催期間中には、常時配信動画を掲載し、支援機器開発の助成金事業の紹介や、厚生労働科研費等の研究報告の視聴を可能とした。
- 各会場で行われた講演はオンラインにてリアルタイムで配信することとした。
- セミナー等の資料については、講演者より資料提供が可となったものについてダウンロード可とした。
- 動画の用途は、出展企業 約80本、障害当事者団体・開発支援機関 約10本

（4）ニーズ・シーズマッチング地域交流会（ATAサテライト）の開催

① 目的

東京や大阪など、会場へ容易に参加できない地域に出向き、支援機器に係わる地域の関係者が集う「ニーズ・シーズマッチング地域交流会」、通称「ATAサテライト」を開催した。ATAサテライトでは、地域の障害者と家族・介護者をはじめ、産業振興団体や開発企業等が参集し、障害者が置かれている状況等を共有化し、課題解決に向けた具体的な支援機器のイメージを協議した。実施にあたり、地域の自治体及び団体・企業等のご協力をいただくことともに、その成果は、厚生労働省が行う「令和6年度・障害者自立支援機器等開発促進事業」の応募に繋げるとともに、製品種目特定型事業の種目検討に役立てることとした。

② 開催日程及び内容

開催地は、全国的に隔たりの無いよう、基本的には過去に実施した地域を除くこととしている。また、地域の実情や支援機器に係る有識者の現状を踏まえて決定した。

今年度は、北海道小樽市、奈良県橿原市、和歌山県和歌山市、熊本県熊本市とした。（以降、それぞれ、「ATA小樽」、「ATA橿原」、「ATA和歌山」、「ATA熊本」と記載する。）

（過去の実施地域）

- ・令和元年度 北海道岩見沢市、高知市、佐賀市
- ・令和2年度 秋田市、宇都宮市
- ・令和3年度 （未実施）
- ・令和4年度 新潟市、山口県下関市、鹿児島市

③ 開催の周知方法

各開催地のテーマについては、支援機器の範囲は、多岐にわたることから地域の関係者及び有識者等と検討して設定することとした。

交流会専用ホームページにATAサテライトの開催案内（チラシ）を掲載し、開催地の座長をはじめとした関係者へ開催案内をもとに周知や周知依頼を行った。

【開催案内チラシ】



④ 具体的な実施方法

支援機器の有識者等からなる座長を設置し、基本的に進行は座長が行うこととした。協会職員は、有識者等から協力を得ながら、ニーズとシーズの間に立って進行をフォローしていく立場で参加した。また、会期中はイラストレーターもオンラインで参加し、議論の活性化及び機器のイメージが参加者で共有できるよう、イラストレーターが作成するイラストを投影し議論を進めた。

参加者は、開催地のニーズ側・シーズ側を対象とするものの、必ずしも限定しないこととした。実施は対面での実施とし、感染状況や遠隔地からの参加の場合にはオンライン（ZOOM）での参加を可とした。

【進行内容】

- 1、開催にあたって（テクノエイド協会）
- 2、参加者の自己紹介
- 3、障害者や支援者のお困り事、実現したいことなど（障害者・支援者）
- 4、機器開発の現状（開発者・研究者）
- 5、課題解決に向けた機器やシステム
- 6、こんなものがあったら良い等、具体的なイメージ（案）の検討

開催日程に関しては、予約会場の都合や座長の意見をお伺いし、1日もしくは2日に分けて実施するかを決定した。

また、参加者には終了後にアンケートに回答していただくこととした。

⑤ 成果物の作成及び普及について

各会場で議論された支援機器のイメージは東京会場にて成果発表の場を設け、本事業が終了しても、当協会HPにて周知し、開発及び普及を促進させることとした。

(5) 交流会開催後のフォローアップ

担当職員による相談窓口を設置し、交流会開催後の成果を支援機器の開発に繋げるため、企画委員や関係団体等と協力しながら、開発企業等に対して継続的に必要な支援を行った。

具体的には、以下の取組みを予定することとした。

(相談窓口の設置)

開発側やユーザー側からの相談に応じる専用窓口を設け、常時対応することとした。

(モニター評価実施にあたっての支援・協力)

開発企業の要望に応じ、関係団体等と連携を図りモニター評価の実施施設や想定するユーザー等を紹介することとした。

具体的には、「福祉用具ニーズ情報収集・提供システム」を活用して、開発中の機器や実用化して間近な機器に対して、モニターやアドバイスにご協力いただける機関（施設や事業所など）を募り、開発企業へ繋ぐこととした。

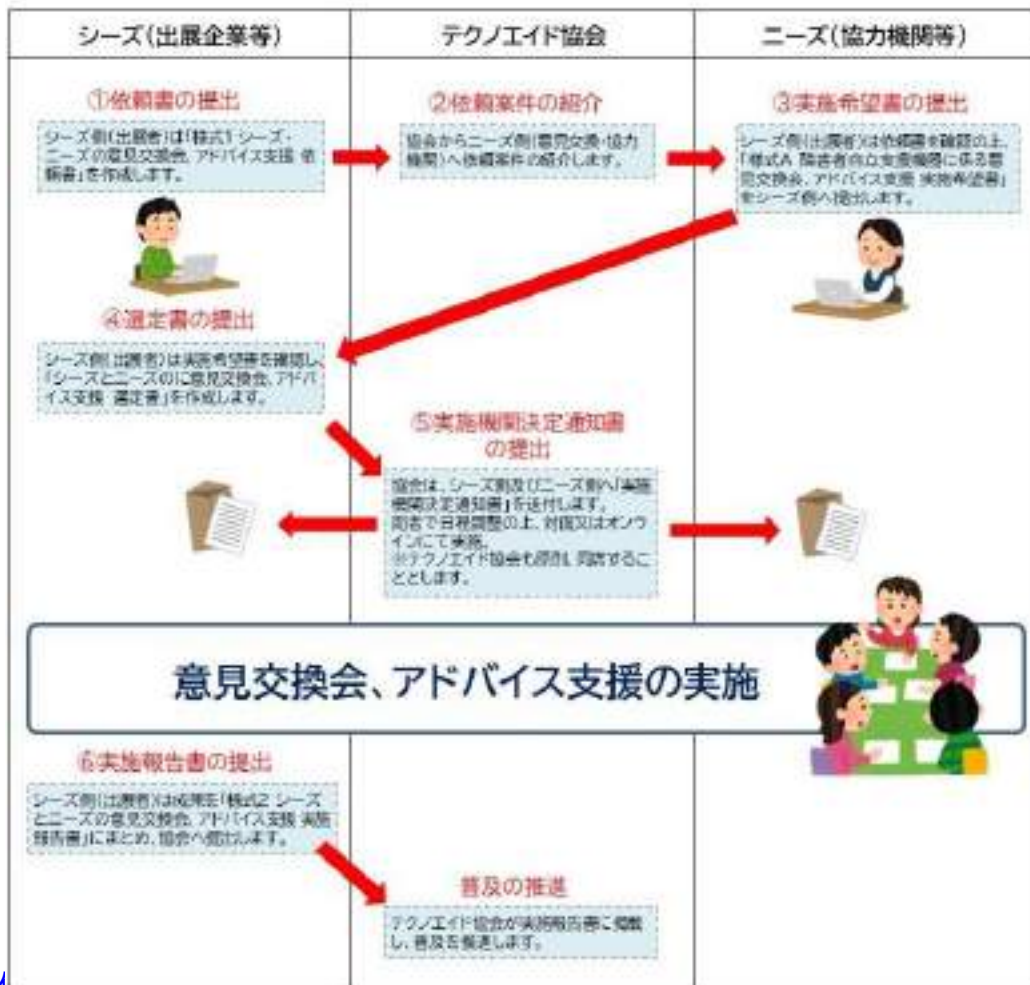
(意見交換会やアドバイス支援の実施)

交流会の成果を着実に支援機器の開発に繋げるため、開発企業の希望に応じて、相談やアドバイス等の開発支援を行うこととした。

具体的には、出展企業等から要望を個別に伺い、関係する障害者等との意見交換会やアドバイス支援等の機会を設けた。訪問及び状況に応じてオンライン会議を可とし、意見交換会等への参加については、地域を限定しないこととした。

成果については、協会HPから各方面へ発信し、ニーズとシーズのマッチングを推進するとともに、来年度以降の開発促進事業の応募を喚起することとした。

【意見交換会、アドバイス支援、応募手続きの流れ】



(その)

その他、必要な支援を関係団体等と連携して行った。

(6) ニーズ・シーズの情報収集・発信

「福祉用具ニーズ情報収集・提供システム」を活用することにより、支援機器に係るニーズとシーズの収集・提供を行った。また、障害当事者団体へインタビューの動画を常時配信として当事者ニーズについて発信を行った。

(7) 実施スケジュール

次ページ参照。

令和5年度 ニーズ・シズマッチング強化事業 実施スケジュール(年間)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
委員会		企画委員会の設置 委託先の公募・決定 出展要項の作成・配布 出展者募集(6/4～7/7) 出展者の選定・決定 出展者説明会(7/18) 集団締切		★第1回企画委員会(7/18) 正式の講演依頼 地域交流会ATAサナサイトの企画検討 地域交流会ATAサナサイトの開催告知、立報			Web開催オンラインナスト 地域交流会 ATAサナサイトの会場の実施
交流会		共有イベント開催検討・実施 正式の講演依頼					
ホームページ		交流会専用HPの設置、PR					ユーザー側のニーズやシズの候補応募・発表
交流会フォローアップ		参加窓口の設置、随書自立支援情報システムの利用、ニーズ情報収集・選抜システムの活用(※年度まで)					
委員会	10月	11月	12月	令和6年1月	2月	3月	
委員会						★第2回企画委員会(3/4)	
交流会		Web開催 10/1-1/31 Web交流プラットフォームを活用したオンライン交流 公式パンフレット作成及び配布 ニーズ・シズマッチング交流会の開催 大塚会場 11/27-29 新市会場 12/12-14					
交流会フォローアップ		交流会の成績を基盤に支援情報の開発に繋げるため、開発企業の希望に応じて、相談やアドバイス等の関係支援を行う 意見交換・アドバイス実施の実施(オンライン又は対面)					
その他						事業報告の作成	

D. 実施結果

(1) 企画委員会の開催結果

「ニーズ・シーズマッチング交流会」の企画及び運営に係わる審議を行い、より良い交流会等の実現に向けた検討を行った。ニーズ側とシーズ側の交流が活性化するよう積極的に交流に関与するとともに、多くの当事者の方々が本交流会に参加いただけるよう呼びかけをお願いした。

① 第1回ニーズ・シーズマッチング交流会 企画委員会

【日時】：令和5年7月19日（水）10：00～11：30

【場所】：オンライン開催（テクノエイド協会・会議室）

【実施内容】：

（実施計画）

- ・本事業の概要について
- ・出展者の募集及び選定状況について
- ・併催セミナーのプログラム（案）

（Webによる交流の実施）

- ・Web交流プラットフォームの構築・運用
- ・出展参加登録票の提出について

（交流の活性化方策）

- ・訪問インタビューの実施について
- ・地域交流会（ATAサテライト）の開催について
- ・モニター評価機関等の募集について【新規】
- ・意見交換会、アドバイス支援の実施について
- ・ホームページの改訂及び動画の部屋の新設【新規】
- ・今後のスケジュール

② 第2回ニーズ・シーズマッチング交流会 企画委員会

【日時】：令和6年3月4日（火）14：00～15：45

【場所】：オンライン開催（テクノエイド協会・会議室）

【実施内容】：

（報告事項）

- ・本事業の実施について
- ・実施結果の報告について
 - ・出展者の選定及び開催の周知
 - ・交流会の企画及び併催イベントについて
 - ・地域交流会（ATAサテライト）の実施結果
 - ・意見交換会、アドバイス支援の実施結果
 - ・今年度の新しい取り組みについて
 - ・開催結果及びアンケート結果

（検討事項）

- ・マッチング交流会を終えて（意見交換）

(2) 出展者の募集から決定までのプロセス

① 企業等の募集について

募集は「出展要項」を作成のうえ、郵送又はホームページへの掲載を行い、周知を行った。

② 企業等の募集

Google Formを使用したWeb上での申し込み方法とした。

③ 募集の期間

令和5年6月1日（木）～7月30日（金）16時必着

④ 周知の方法、周知先

- ・ 発送方法 : 郵送
- ・ 発送物 : 出展要項、交流会開催案内（開催チラシ）
- ・ 発送数 : 1,581カ所

主な送付先：

- 過去の開発促進事業応募企業
- 過去の交流会出展及び来場企業
- 福祉用具情報システム（TAIS）登録企業（抽出）
- 高等専門学校
- 介護ロボット関連企業 都道府県・政令市 報道機関、地方産業組織 等

⑤ 出展企業の選定及び選定結果について

事務局では、応募のあった企業の中から、以下の観点及び障害の種別等を勘案して、全93者の選定を行った。

全99者の応募があり、93者を決定した。選考にあたっての観点は以下のとおり。

（選考にあたっての観点）

- ・ 障害者の活動や参加を支援する要素技術であるか
- ・ 交流会の目的及び要件に合致しているか、営業目的ではないか
- ・ 新規あるいは交流を踏まえて改良する意思があるか
- ・ 採択又は推薦があるか

a. 出展機器の障害種別（大阪会場及び東京会場）

障害種別	応募	決定
身体障害（肢体不自由）	51	54
視覚障害	8	9
聴覚障害	11	11
高次脳機能障害（失語症等）	2	3
知的障害（身体介護が必要ないケースを含む）	3	2
精神障害（発達障害を含む）	6	6
その他	18	8
合計	99	93

※事務局審査において、応募内容を確認し、障害種別を変更したものを含む。

b. 各会場の募集定員及び決定（当事者団体、開発支援団体等を除く）

会場	定員	決定（昨年実績）
大阪会場	50	53（51）
東京会場	60	77（62）

c. 障害種別、分野、会場別の出展者数

障害種別、分野毎のゾーン	大阪会場 出展者数	東京会場 出展者数
身体障害（肢体不自由）	30	46
視覚障害	5	7
聴覚障害	5	11
高次脳機能障害（失語症等）	3	2
知的障害（身体介護が必要ないケースを含む）	2	2
精神障害（発達障害を含む）	3	3
その他	4	4
障害当事者団体・開発支援団体等	12	13
合計	64企業・団体	88企業・団体

※出展辞退は以下の2社となる。

【出展辞退】

- ・ 共栄プロセス株式会社 ※出展機器の開発が進まず出展辞退（東京会場）
- ・ スマイル メグ ※当日無断欠席（大阪及び東京会場）

また、今年度も日本リハビリテーション工学協会と連携し、同協会が主催する「福祉機器コンテスト2023」で受賞した作品の展示を行った。また、国立障害者リハビリテーションセンターで研究開発を行っている機器も展示することとした。

⑥ 出展者を対象とした説明会の実施

出展企業等を対象として、本事業の目的、出展要項の説明、交流会参加にあたってのお願い等、オンライン説明会を実施した。なお、原則、出展者は参加を必須とし、参加できなかった企業には本説明会を録画した動画を視聴していただくこととした。

○出展企業等を対象にしたオンライン説明会

【実施日】令和5年7月18日（火）13時30分～

【内容】

（重要なお知らせ）

- （1）ニーズ・シーズマッチング強化学業の概要について
- （2）出展企業等の募集要項
- （3）出展企業等の状況及び、会場レイアウト（案）について
- （4）交流会参加にあたってのお願い

（報告事項）

- （5）支援機器に係る意見交換会、アドバイス支援事業の実施について
- （6）地域交流会開催に伴う参加協力をお願い（小樽、和歌山、橿原、熊本）
- （7）モニター評価機関等の募集について

（質疑応答）

【説明会開始前スライド】



⑦ 会場の展示方法

今年度は、交流会への出展応募件数が昨年度よりも多く、昨年よりも出展者数を増やすことにした。ブース間の幅を極力狭くすることで、通路の幅を確保し車椅子ユーザーでも十分に移動ができるようスペースを設けることに配慮した。

また、障害の分野ごとにゾーンを分け、当事者団体や支援団体を出展者が困るようなレイアウトにし、出展者でもニーズ側とシーズ側が交流を図りやすい環境に務めた。

【障害分野ゾーン】

- A. 身体障害（肢体不自由）、B. 視覚障害（盲ろうを含む）、C. 聴覚障害
- D. 高次脳機能障害（失語症等）、E. 知的障害、F. 精神障害（発達障害を含む）、G. その他
- X. 当事者団体

【大阪会場レイアウト】



【東京会場レイアウト】



【大阪会場展示の風景】



【東京会場展示の風景】



(3) 交流会の周知

① 交流会専用ホームページの開設

【期 間】：令和5年6月5日（月）～

【周知方法】：協会ホームページより、順次最新情報になるよう更新を行った。

テクノエイド協会にアクセスすると、上部に交流会のバナーを表示させ、バナーをクリックすると交流会専用サイトに移る仕組みとした。

【協会トップページ】



交流会専用ページは、大幅にデザイン及び仕様を変更することとした。

本サイトは、掲載する情報量が多いため、前年度までは、サイト自体が縦長になってしまい、頻繁にスクロールが必要になっていた点や、目的の内容や記事を探し出すことが困難であった。具体的な改修点としては、タブ機能を使い、目的の内容を分けることで情報が散財せず、コンパクトに視覚的にも操作性面でも使いやすいサイトとなっている。

【交流会専用ページ】



開催日程

Web開催	大阪会場	東京会場
<p>令和5年 10月1日(日)～ 令和6年 1月31日(水)</p>  <p>会場 テクノエイド協会HP内 「Web交流プラットフォーム内」</p>	<p>令和5年 11月27日(月)～ 29日(水)</p> <p>初日 13:00～17:00/9:00～17:00 (最終日のみ16:00)</p>  <p>会場 OMM 口黒屋ホール</p> <p>アクセス 京阪電車「天満橋」駅東口、 Osaka Metro 谷町線「天満橋」駅 北改札口から60m地下2階に開催</p>  <p>※開催がオンラインであるため、必ずしもこの地図が参考になります。</p>	<p>令和5年 12月12日(火)～ 14日(木)</p> <p>初日 13:00～17:00/9:00～17:00 (最終日のみ16:00)</p>  <p>会場 東京船立産業設備センター 2階北側 (5階層改修)</p> <p>アクセス 京浜東北線(北口)より徒歩5分 ゆつがも竹芝駅より徒歩2分 東京モノレール浜町駅(北口) より徒歩5分 都営浅草線大門駅より徒歩7分 都営大江戸線大門駅より徒歩7分</p>  <p>※開催がオンラインであるため、必ずしもこの地図が参考になります。</p>

公式レポート (PDF)
7.3MB

文庫版のあんがうチラシ
(PDF) 2.0MB

会場の開催の様子と案内一覧
(PDF) 4.3MB

障害者自立支援協会

ニーズ・シーズマッチング

交流会 2023

作る人と使う人の交流会

みんなで考えよう!

【制作者と利用者との交流の場】

※本交流会は、制作者と利用者との交流の場であり、制作者と利用者との交流の場です。制作者と利用者との交流の場です。

<p>Web開催</p> <p>令和5年 10月1日(日)～令和6年 1月31日(水)</p> <p>テクノエイド協会のWeb交流プラットフォーム内</p>	<p>大阪会場</p> <p>令和5年 11月27日(月)・28日(火)・29日(水)</p> <p>開催時間 初日13:00～17:00/9:00～17:00(最終日のみ16:00) OMM口黒屋ホール</p>	<p>東京会場</p> <p>令和5年 12月12日(火)・13日(水)・14日(木)</p> <p>開催時間 初日13:00～17:00/9:00～17:00(最終日のみ16:00) 東京船立産業設備センター(2階北側)で開催</p>
---	---	---

Web開催イベント内容

制作者と利用者との交流の場であり、制作者と利用者との交流の場です。制作者と利用者との交流の場です。

開催イベント内容

- 交流会
- 制作者と利用者による交流会の開催(制作者と利用者)
- 交流会の開催(制作者と利用者)
- 交流会の開催(制作者と利用者)
- 交流会の開催(制作者と利用者)
- 交流会の開催(制作者と利用者)

大阪・東京開催イベント内容

交流会の開催(制作者と利用者)、交流会の開催(制作者と利用者)、交流会の開催(制作者と利用者)



※本交流会は、制作者と利用者との交流の場であり、制作者と利用者との交流の場です。制作者と利用者との交流の場です。

※本交流会は、制作者と利用者との交流の場であり、制作者と利用者との交流の場です。制作者と利用者との交流の場です。

※本交流会は、制作者と利用者との交流の場であり、制作者と利用者との交流の場です。制作者と利用者との交流の場です。

制作者と利用者との交流の場であり、制作者と利用者との交流の場です。制作者と利用者との交流の場です。

制作者と利用者との交流の場であり、制作者と利用者との交流の場です。制作者と利用者との交流の場です。

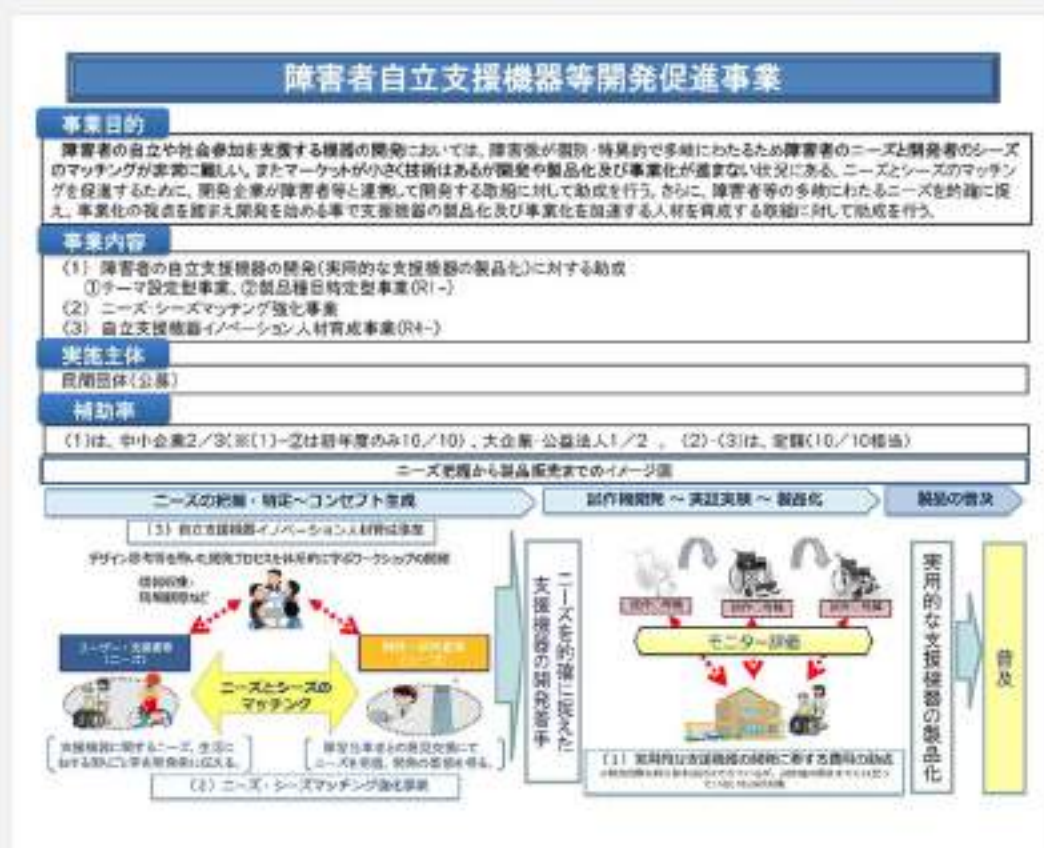
制作者と利用者との交流の場であり、制作者と利用者との交流の場です。制作者と利用者との交流の場です。

制作者と利用者との交流の場であり、制作者と利用者との交流の場です。制作者と利用者との交流の場です。

制作者と利用者との交流の場であり、制作者と利用者との交流の場です。制作者と利用者との交流の場です。

制作者と利用者との交流の場であり、制作者と利用者との交流の場です。制作者と利用者との交流の場です。

参考（障害者自立支援機器等開発促進事業）



参考（交流会の記録動画）

2018年度 記録動画



2019年度 記録動画



② 公式パンフレット及びチラシの作成、配布

本交流会開催の周知として公式パンフレット及びチラシを作成し、過去の来場者、障害者団体、開発企業、職能団体、行政など5,922カ所に送付した。また、公式パンフレットとは別に基調講演、特別講演が記載されているチラシ、日本リハビリテーション工学協会と連携し、同協会が主催する「福祉機器コンテスト2023」のチラシも同封し、周知することとした。

【パンフレット】



【福祉機器コンテスト2022チラシ】



【期 間】：令和5年10月上旬～

【周知方法】：郵送、メール等

【送付物】：公式パンフレット、福祉機器コンテスト2023チラシ

【主な送付先】：

- 障害者団体、支援団体（日本障害者協議会会員、全国の障害当事者団体 等）
- 開発企業（過去の採択企業、T A I S登録企業、過去の交流会出展企業 等）
- 行政（都道府県、市町村の障害主管課）
- 過去の交流会一般来場者
- 職能団体（都道府県のPT協会、OT協会事務局、ST協会事務局）
- 介護実習・普及センター、ITサポートセンター
- 全国の更生相談所、リハビリテーションセンター
- 介護ロボット関連企業または施設
- 義肢製作所、
- 特別支援学校
- 報道機関
- その他（賛助会員、個人あて）

【関係団体への周知及び周知依頼】

厚生労働省及び関係機関・団体の協力のもと、多くの団体等へ本交流会開催を周知した。主な周知先は以下のとおり。

- 日本作業療法士協会：会員向けHPに掲載
- 静岡県作業療法士協会：HPへの掲載
- 神奈川県作業療法士協会：HPへの掲載
- 日本言語聴覚士協会：機関紙、HPへの掲載
- 独立行政法人福祉医療機構（WAM）：イベントセミナーHPに掲載

- 日本障害者リハビリテーション協会：会員へ周知のお願いを実施
- JASPA：会員へ周知のお願いを実施
- バリアフリー展：会員へメルマガの送信、HPに掲載
- 福祉新聞：開催情報を掲載

(4) Web開催及び会場開催のイベント内容

① Web開催

【開催期間】：令和5年10月1日（日）～令和6年1月31日（水） 4ヵ月間

【会場】：テクノエイド協会 Web交流プラットフォーム内

【内容】：

- ・開発助成金事業の紹介、各種支援機器開発に係る研究報告等の配信
- ・オンラインにて出展者情報及び支援機器の紹介動画等の配信
- ・掲示板、問い合わせフォームを使用した意見交換の実施

【Webセミナープログラム】

プログラム	内容	発表等
1 開会挨拶	本交流会の目的、Web 及び会場開催のご案内	公益財団法人テクノエイド協会 企画部 宇田川 竜吾
2 行政の取り組み	障害者自立支援機器等開発促進事業の実施について	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課 自立支援振興室 福祉工学専門官 中村 美緒 氏
	福祉用具の研究開発の推進 SBIR推進プログラムの実施について	国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) イノベーション推進部 プラットフォームグループ 主査 只野 肇 氏
	情報バリアフリー環境の実現を目指して	国立研究開発法人 情報通信研究機構(NICT) デプロイメント推進部門 情報バリアフリー推進室 室長 丸山 誠二 氏
3 研究報告	真のニーズに基づく支援機器の開発・事業化を実現するための出口・普及を想定した支援ネットワークモデル構築のための研究	一般社団法人臨床医工情報学コンソーシアム関西 八木雅和 氏
	新技術を利用した支援機器の開発および選定・導入時の指針作成のための調査研究	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部 硯川潤 氏
	支援機器開発コーディネーター人材育成プログラムの開発に資する研究	東京大学 大学院新領域創成科学研究科 二瓶美里 氏
	支援機器の開発・普及に資するモデル拠点構築に資する研究	国立障害者リハビリテーションセンター 芳賀信彦 氏
4 ニーズ発信	支援機器に対する期待、開発企業に対して協力可能なこと	公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会 常務理事・事務局長 安藤 信哉 氏
		ポリオの会 代表 小山 万里子 氏
		特定非営利活動法人 日本失語症協議会 理事長 園田 尚美 氏
		ASD(自閉スペクトラム症)生活環境研究会 代表 増澤 高志 氏

OWeb交流プラットフォームについて

出展企業等や出展機器情報の掲載、掲示板・問い合わせフォームからの意見交換、併催セミナーの視聴、セミナー資料のダウンロードを可能にしたプラットフォームを構築した。

出展企業等や出展機器情報は、「カテゴリー」、「フリーワード」より検索を可能とし、出展企業ごとに出展者のページを作成し、「掲示板」もしくは「問合せフォーム」を使って意見交換ができるよう仕組みとした。本プラットフォームは、Web開催開始日の令和5年10月1日から令和6年1月31日までを公開期間とした。

【交流会専用トップページ】

The screenshot shows the website for the 'Needs-Seasons Matching Enhancement Project' (ニーズ・シーズマッチング強化事業). The page includes a header with the logo of the 'Society for Technical Aids' (テクノエイド協会) and a navigation bar. The main content area features a large banner for the 'Exchange 2023' (交流会 2023) event, which is described as an exchange between those who create and those who use. The banner lists three event dates: October 1st to November 31st (online), November 27th to 29th (on-site at OMM), and December 12th to 14th (on-site at the National Institute of Advanced Industrial Science and Technology). Below the banner is a navigation menu with several options, including 'Web Exchange Platform' (Web交流プラットフォーム), which is highlighted with a red box. Other menu items include 'Business Overview', 'Lecture Seminars', 'Exchange Event Registration', 'Local Exchange', 'Monitor Evaluation and Collection of Needs', 'Opinion Exchange and Advice Support', 'Video Collection', 'Exchange Event Registration', and 'Past Exchange Events'. At the bottom, there is a section for 'Information Topics' (お知らせトピックス) with a list of links to various pages.

【Web交流プラットフォーム画面】

Web交流プラットフォーム

出展機器や企業等を調べ、交流したい相手に問い合わせフォームから連絡してください。
 出展企業のページでは、機器の概要（動画）や交際したい内容がご覧になります。
 当事者団体・開発支援機関等のページでは、団体の紹介や支援機器に関するケースなどがご覧になります。

閲覧数：14632

出展企業等と交流

こちらでは、出展企業を検索することができます。「もっと見る」をクリックすると出展者一覧を見ることが可能です。「会場」、「カテゴリ」、「フリーワード」より検索が可能です。製品名をクリックすると出展者・出展機器の詳細を見ることができます。

※出展者一覧の並び順は、ランダムに表示されます。
 ※条件を表示する場合は、検索条件を消去してから検索ボタンをクリックしてください。

会場

カテゴリ

フリーワード

東京会場に出展する機器
 大阪会場に出展する機器

A. 身体障害（肢体不自由）
 C. 感覚障害
 E. 知的障害（身体介護が必要なケースを含む）
 G. その他

B. 視覚障害（盲ろう含む）
 D. 高次脳機能障害（失語症等）
 F. 精神障害（発達障害を含む）

検索

クリア

91件の結果があります

出展者	製品名	製品概要	製品画像	カテゴリ	会場	割合等	動画
株式会社リコー	遠隔操作可能なコミュニケーションデバイスPekoe（ペコ）	Pekoe（ペコ）は聴覚障がいをお持ちの方と一緒に働く職場のコミュニケーションを促進する音声認識のサービスです。音声操作でリモート会議や対面会議の音声をリアルタイムに文字化し、動画視聴にも活用できます。登録済みのブックマーク共有リンクを聞いて簡単に翻訳を修正でき、メールやチャットなど双方向コミュニケーションが実現できます。記録には30		聴覚障害	東京 C-11	割合等 終了済 終了済 終了しました	動画

当事者団体・開発支援機関等と交流

当事者団体

企業・団体名	交流したい内容	カテゴリ	会場	割合等	動画
ポリスPPS協会	ポリオPPS患者は全身にわたって様々な障害を持ち、様々な分野の福祉施設を必要としている。企業に対するいろいろな角度から現実し相談していくことで、他の障害の方にも通じる課題の解決を回ってきたい。	障害当事者団体	大阪 東京	割合等 終了済 終了済 終了しました	動画
公益社団法人 全国知的障害者連合会	障害当事者の生活上の課題やニーズは様々です。その課題解決、QOL向上に福祉用具に大きく期待しています。是非当事者の声を福祉施設開発に反映させていただければと想っています。	障害当事者団体	大阪 東京	割合等 終了済 終了済 終了しました	動画
	本マッチングの成果を巡って、シーズ創企業及び申請者に、「暮らしやすい社会の実現」を目的として実施する。また、福祉・教育関係			割合等	

【出展者ページ】

株式会社プラスヴォイス | カバシキカイシャプラスヴォイス
今までの閲覧数: 69

製品名(名称を含む) **PVRTC (遠隔手話通訳システム)**

出展者情報

東京会場に出展 会場では実機を見ることができます。



住所	〒580-0803 宮城県仙台市青葉区宮城1丁目8-14
担当部署	コンダクト
氏名	石井 彰
TEL	080-1888-XXXX
FAX	022-723-XXXX
企業HP	https://www.plusvoice.jp
その他	

★問い合わせ★
 来場者が1対1で個別に出展者と交流したい場合に使用する。
 問合せフォーム内の「問い合わせ種別」から電話やオンラインで交流等、交流内容を選択することができる。

出展機器情報

出展機器	PVRTC (遠隔手話通訳システム)
型番	PVRTC
障害種別	聴覚障害
機器の概要	「遠隔手話通訳サービス」は、聞こえない方と聞こえる人が自在に話せる、「ビデオ通話」を用いた通訳サービスです。QRコードの読み取りやスマートフォン等から接続するだけで、オペレーターがリアルタイムに通訳を提供し、現在、行政窓口、販売店舗、コールセンター等に導入が広がっています。筆談からの時間短縮、伝達情報量の保持、正確な要望把握のほか、課題とされる聞こえない方へのアクセシビリティを再現可能にします。
参考資料	

交流したい内容

コロナ禍により、手話通訳の派遣が困難になった際に、ビデオ通話を利用して遠隔での通訳ができるよう、自治体や聞こえない方の要望に応じて開発されたシステムです。災害時や感染症拡大時以外にも、離島や遠方の所など派遣が困難な時にも地域の手話通訳者が対応できます。今後の取り組みとしては、利用者様のニーズをヒアリングし、より良いものに改良して参ります。

**この機器について問い合わせする
(交流を希望する)**



■交流を希望するの活用方法
 当該機器について、メーカーにうかがいたこと、意見交換や交流したことがあれば、連絡をして電話やオンラインで交流してください。クリックすることにより、問い合わせフォームが開きます。

**この機器について新しく投稿する
(掲示板)**



■掲示板の活用方法
 ニーズ側は、当該機器に対する要望やアイデア、課題を、シース側(出展者を含む)は、交流したい具体的な内容や機器の特長、会場出展に向けてのPRをそれぞれ記載してください。

掲示板

★掲示板★
 来場者がオープン(来場者に公開)で出展者と交流したい場合に使用する。匿名でも投稿は可能で、投稿内容は蓄積される。

25

【Webセミナー視聴 画面】

交流会トップ画面から、「講演セミナー」のタブをクリックすると、下記画面に切り替わり、資料のダウンロード、YouTube を通してご動画の視聴を可能とした。

講演セミナー

交流会会場での講演等

基調講演

基調講演は、会場での開催となります。受講を希望される方は、大阪会場又は東京会場へご来場ください。（無料）

No	プログラム	内容	発表者	資料	動画の視聴 YouTube
1	大阪:11月30日(水) 13:30~ 東京:12月10日(水) 13:30~	ニーズを捉えた福祉機器の開発と評価 ー 開発者と消費者に求められること ー	造形大学工学部附属実用応用リハビリテーション科 設備教授 浅見 豊子 先生		

▶

大阪会場セミナー [詳細](#)

東京会場セミナー

No	プログラム	内容	発表者	資料
1	開会挨拶 (20分)	13:40~ 14:00 本交流会の目的、Web及び会場開催のご意向	公益財団法人テクノエイド協会 企画部 平田川 竜吾	
			厚生労働省 社会・福祉部 厚生労働省 福祉工学専門室 中村 美穂 氏	

Webセミナー 常時配信

国立支援情報センターの取り組みや研究報告、各団体によるニーズ動向などを紹介しています。

No	プログラム	内容	発表者	資料	動画の視聴 YouTube
1	開会挨拶	本交流会の目的、Web及び会場開催のご意向	公益財団法人テクノエイド協会 企画部 平田川 竜吾		
2	行役の取り組み	障害者自立支援情報等開発促進事業の発表について	厚生労働省 社会・福祉部 障害保健福祉部 企画課 国立支援情報室 福祉工学専門室 中村 美穂 氏		
		福祉用具の研究開発の推進 S&S推進プログラムの実施について	国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) イノベーション推進部 プラットフォームグループ 三宮 只野 氏		
3	研究報告	情報/リアフリー環境の実現を促して	国立研究開発法人 情報通信研究機構 (NICT) サブロイメント推進部門 情報/リアフリー推進室 室長 丸山 誠二 氏		
		真のニーズに基づく支援機器の開発・事業化を 実現するための出口・普及を想定した支援キッ トワークモデル構築のための研究	一般社団法人 福祉工情報学コンソーシアム関西 八木 雅村 氏		
		福祉用具を利用した支援機器の開発および導入・ 導入後の設計検証のための調査研究	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉情報開発部 磯川 昌 氏		
4	ニーズ発信	支援機器開発コーディネーター人材育成プロ グラムの開発に関する研究	東京大学 大学院新領域創成科学研究科 二瓶 真直 氏		
		支援機器の開発・普及に関するモデル拠点構築 に関する研究	国立障害者リハビリテーションセンター 末廣 信幸 氏		
		女性機器に対する期待、開発企業に対して協力 可能なこと	公益財団法人 全国福祉情報推進連合会 策励理事・事務局長 支那 信哉 氏 ポリオ協会 代表 中山 万穂子 氏 特定非営利活動法人 日本共聴覚協会の 理事 西 進江 尚美 氏 ASD (自閉スペクトラム症) 生活環境研究会 代表 植原 浩吉 氏	  	  

② 大阪会場

【開催期間】：令和5年11月27日（月）～29日（水） 3日間

【時間】：初日13:00～17:00／9:00～17:00（最終日のみ16:00）

【会場】：OMM（2階展示Aホール）

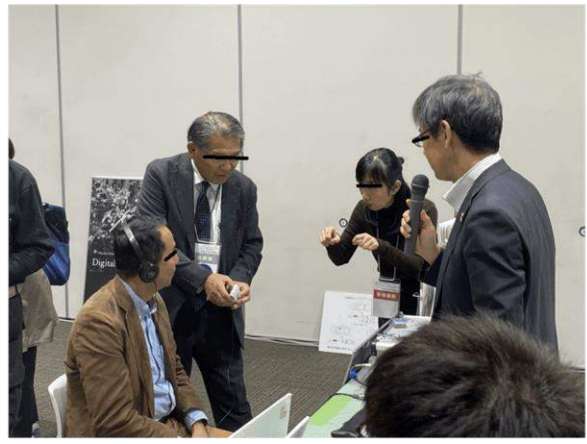
【開催イベント内容】：

- ・オンラインにて出展者情報及び支援機器の紹介動画等の配信
- ・掲示板、問い合わせフォームを使用した意見交換の実施
- ・開発中の試作機等の展示及び体験、意見交換の実施
- ・会場にて講演の実施

【講演プログラム】

プログラム		内容	発表等
11/27 (月)	開会挨拶 (20分)	13:40～	本交流会の目的、Web 及び会場開催のごあんない 公益財団法人テクノエイド協会 企画部 宇田川 竜吾
		14:00～	障害者自立支援機器等開発促進事業の実施について 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課 自立支援振興室 福祉工学専門官 中村 美緒 氏
	行政の 取り組み (各20分)	14:20～	福祉用具の研究開発の推進 SBIR推進プログラムの実施について 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) イノベーション推進部 プラットフォームグループ 只野 肇 氏
		14:40～	情報バリアフリー環境の実現を目指して 国立研究開発法人 情報通信研究機構(NICT) デプロイメント推進部門 情報バリアフリー推進室 室長 丸山 誠二 氏
11/28 (火)	開発動向 最前線 (各20分)	10:30～	車椅子用ユニバーサルアタッチメントの紹介 日本福祉大学 福祉テクノロジーセンター センター長 渡辺 崇史 氏
		10:50～	LOOVIC の紹介 LOOVIC 株式会社 代表取締役 山中 享 氏
	基調講演 (60分)	13:30～	ニーズを捉えた福祉機器の開発と評価 ～ 開発者と障害者に求められること～ 佐賀大学医学部附属病院 リハビリテーション科 診療教授 浅見 豊子 氏
11/29 (水)	特別報告 (20分)	14:00～	見えないバリアと聴覚障害者のICT機器の活用 特定非営利活動法人 インフォメーションギャップバスター 理事長 伊藤 芳浩 氏
		14:20～	ICT 活用で発達障害児の早期療育、保護者支援を全国へ 特定非営利活動法人 ADDS 共同代表 熊 仁美 氏
		14:40～	欧州の自助具を日本へ 株式会社フィッシャーマン 東京連絡事務所 所長 小関 守 氏

【大阪会場 交流の様子】



③ 東京会場

【開催期間】：令和5年12月12日（火）～14日（木） 3日間

【時間】：初日13：00～17：00／9：00～17：00（最終日のみ16：00）

【会場】：東京都立産業貿易センター浜松町館（5階展示室）

【開催イベント内容】：

- ・オンラインにて出展者情報及び支援機器の紹介動画等の配信
- ・掲示板、問い合わせフォームを使用した意見交換の実施
- ・開発中の試作機等の展示及び体験、意見交換の実施
- ・会場にて講演の実施

【講演プログラム】

プログラム		内容	発表等
12/12 (火)	開会挨拶 (20分)	13:40~ 本交流会の目的、Web 及び会場開催のご案内	公益財団法人テクノエイド協会 企画部 宇田川 竜吾
	行政の 取り組み (各20分)	14:00~ 障害者自立支援機器等開発促進事業の実施について	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課 自立支援振興室 福祉工学専門官 中村 美緒 氏
		14:20~ 福祉用具の研究開発の推進 SBIR推進プログラムの実施について	国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合 開発機構(NEDO) イノベーション推進部プラットフォームグループ 只野 肇 氏
		14:40~ 情報バリアフリー環境の実現を目指して	国立研究開発法人 情報通信研究機構(NICT) デプロイメント推進部門情報バリアフリー推進室 室長 丸山 誠二 氏
12/13 (水)	関係機関等 による取 組み (各20分)	10:00~ 令和4年度 自立支援機器イノベーション人材育成 事業の報告	プレモパートナー株式会社 柿花 隆昭 氏
		10:20~ 福祉機器コンテスト 2023 受賞作品の紹介	一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 理事 村田 知之 氏
	基調講演 (60分)	13:30~ ニーズを捉えた福祉機器の開発と評価 ～ 開発者と障害者に求められること ～	佐賀大学医学部附属病院 リハビリテーション科 診療教授 浅見 豊子 氏
	地域交流会 の成果報告 (各20分)	15:00~ 高齢化した知的障がい者の支援機器を考える ～機能低下が自覚できずに起こるリスク～	社会福祉法人北海道社会福祉協議会 地域共生社会推進部長 中村健治 氏
		15:20~ ASD(自閉スペクトラム症)の人が必要とする支 援機器を考える	ASD(自閉スペクトラム症) 生活環境研究会 代表 増澤 高志 氏
		15:40~ 医療的ケアが必要な方、子どもの可能性を広げる 支援機器を考える～困りごとの解決からやりたい ことへの挑戦の一步まで～	株式会社アシテック・オコ 代表 作業療法士 小林 大作 氏
		16:00~ 知的障害者の意思決定の補助や意思表示を補助 する支援機器について考える	社会福祉法人つつじヶ丘学園 つつじヶ丘学園 施設長 恒松 祐輔 氏
	12/14 (木)	開発促進 事業 成果報告 (各15分)	13:40~ 5指駆動型筋電義手(BIT ハンド)
13:55~ 自分の声ソフトウェアボイスター			株式会社ヒューマンテクノシステム
14:10~ 障害者向けの空間移動ロボットを用いた遠隔就 労システム			ダブル技研株式会社
14:25~ 電動車椅子フットガードフレーム			矢崎化工株式会社
14:40~ 以心伝心			志エンボディ合同会社
14:55~ 新心語り			ダブル技研株式会社

【東京会場 交流の様子】



(5) ニーズ・シーズマッチング地域交流会（ATAサテライト）の実施結果

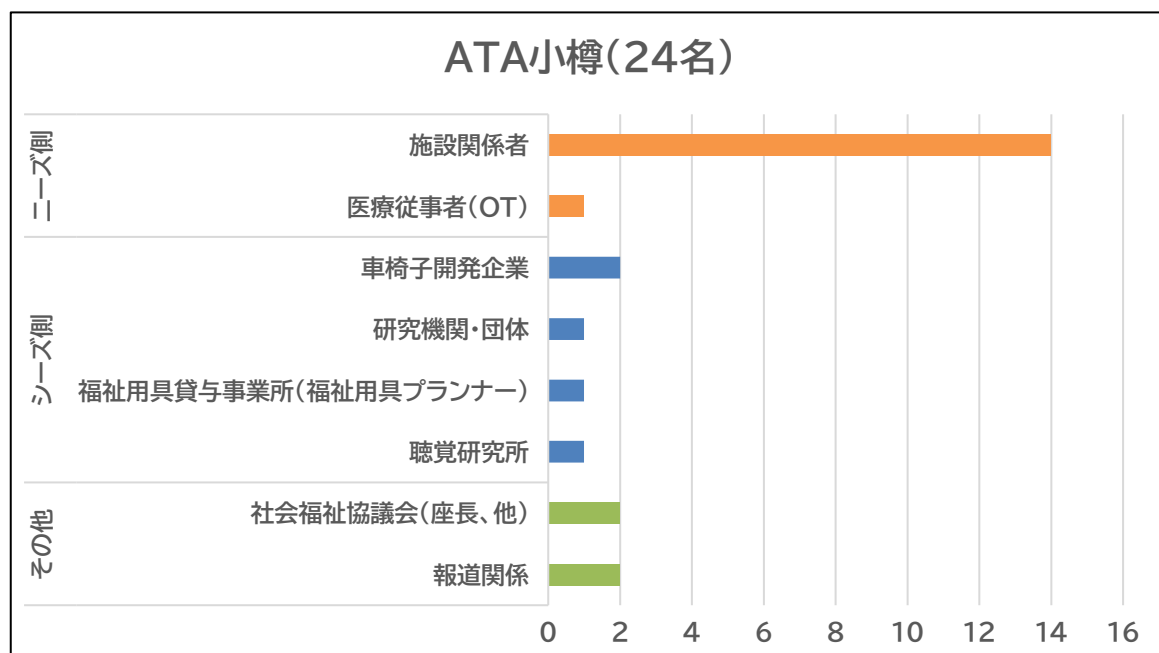
① 開催内容

開催内容は以下の通り。

開催地	北海道 小樽市	奈良県 橿原市	和歌山市	熊本市
テーマ	高齢知的障がい者の支援機器を考える ～機能低下が自覚できずに起こるリスク～	ASD(自閉スペクトラム症)の人が必要とする支援機器を考える	医療的ケアが必要な方、子どもの可能性を広げる支援機器を考える ～困りごとの解決からやりたいことへの挑戦の一步まで～	知的障害者の意思決定の補助や意思表示を補助する支援機器について考える
日時	令和5年10月6日(金) 9:30～16:00 7階 B ホール	令和5年9月6日(水) 9:30～16:00 小会議室(第2)	1日目 令和5年9月15日(金) 13:30～16:30(中会議室) 2日目 令和5年9月16日(土) 9:30～11:30(会議室1・2)	1日目 令和5年9月19日(火) 13:30～16:30(会議室9) 2日目 令和5年9月20日(水) 10:00～12:00(会議室9)
座長	社会福祉法人北海道社会福祉協議会 地域共生社会推進部長 全国福祉用具相談・研修機関協議会 副代表・事務局長 中村健治 氏 【協力】: 知的障がい者施設 社会福祉法人 後志報恩会	ASD(自閉スペクトラム症) 生活環境研究会 代表 増澤高志 氏	株式会社アシテック・オコ 代表 小林大作(作業療法士) 氏 【副座長】 たぶせ在宅クリニック 医師 神崎和紀 氏	社会福祉法人つつじヶ丘学園 つつじヶ丘学園 施設長 恒松祐輔 氏
会場	小樽経済センター	橿原市商工経済会館	和歌山県勤労福祉会館 プラザホープ	くまもと県民交流館パレア
参加料 資格等	無料、本テーマに興味のある方でしたら、どなたでも参加可能 20名程度 ※原則、対面開催			

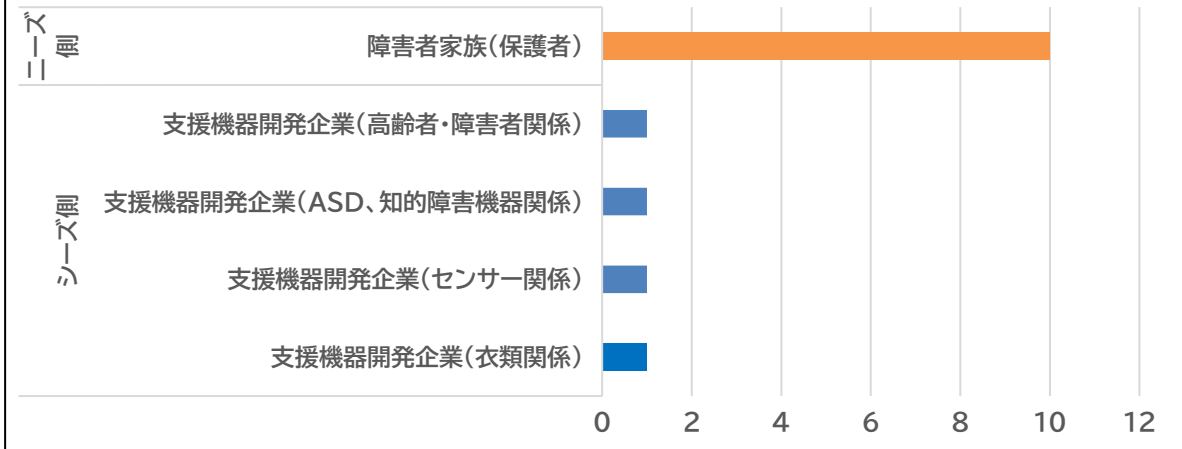
② 参加者の属性

参加申し込みはGoogle Formを使用して参加者の申込を行った。当日参加も可とした。参加者の属性は以下の通り。(事務局で把握できた範囲での参加者の属性を示す)

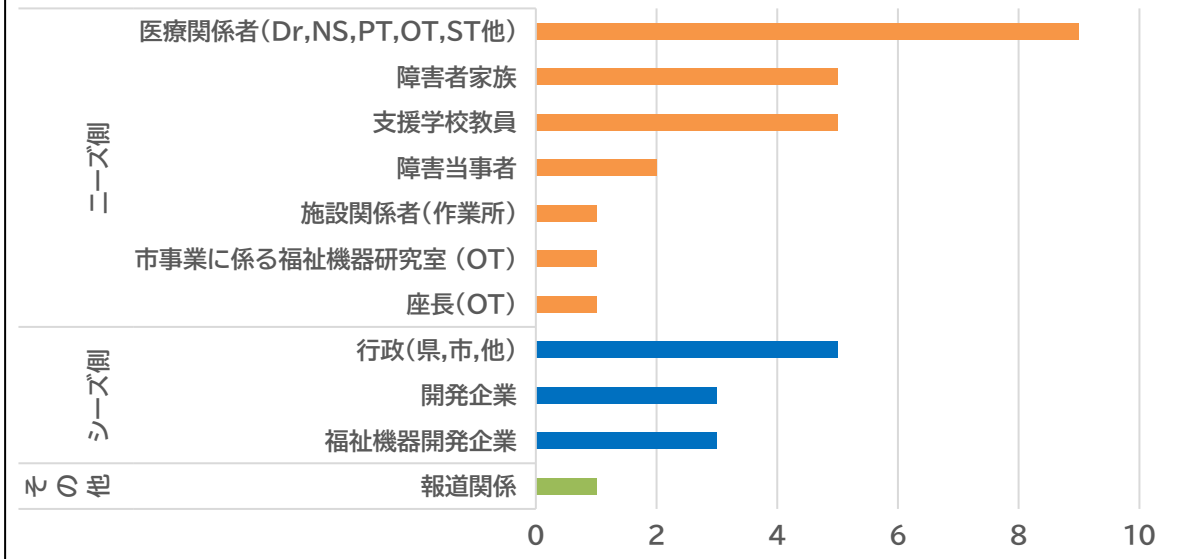


※施設関係者には、「管理者」、「施設長」、「サービス責任者」、「生活支援員」等を含む。

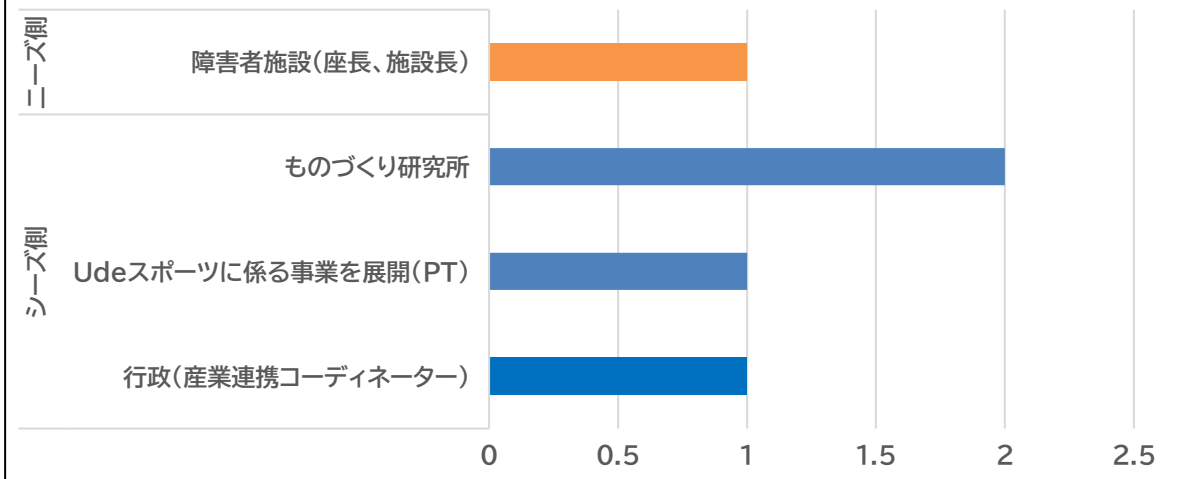
ATA檀原(14名)



ATA和歌山(36名)



ATA熊本(5名)



③ 開催結果

○ATAサテライト小樽

【座長】：中村 健治 氏（北海道社会福祉協議会）

【検討テーマ】：「高齢知的障がい者の支援機器を考える～機能低下が自覚できずに起こるリスク～」

【参加者】：計28名（ニーズ側：16名、シーズ側：5名、事務局他：7名）

※会場及びオンラインにて参加いただいた。

【主な検討内容】：

ニーズ側では、（社福）後志報恩会にご協力いただき、当該法人の各施設において、利用者の支援にあたっている職員の方々にご参加いただいた。シーズ側としては車椅子開発者、福祉用具開発及び貸与事業所、聴能科学研究所、医療福祉産業研究会に参加いただいた。後志報恩会では、入所者の5割が60歳以上であり、加齢に伴う機能低下により事故等のリスクが高まっている。

ニーズの把握にあたっては、事前に施設利用者よりインタビュー動画を記録したものを再生し、支援をしている職員の方からも現場でのニーズ、課題について言及された。

知的障害に起因して生きづらさを抱える利用者が、高齢化に伴う認知機能の低下などを自身で認識できずに、日常生活に困難を抱えていることや、病気や障害の理解が不十分なために、日常生活のリスクも高まっている現状であった。また、コミュニケーションの面においても、知的障害により理解・判断ができていないのか、認知機能が低下していることによるものなのかの判断は難しく、認知症の発見が遅れる場合がある。

利用者の高齢化により、職員の支援方法も対応が難しい場面も増えてきていることが明らかになった。支援機器やテクノロジーを活用することで解決できるのは無いかと検討した。

【議論の経過をイラストにしながら具体的な機器のイメージを検討した（抜粋）】



利用者Aさんの声

Q. 将来、足腰が弱くなり、車いすを使用するようになったら車いすを動かすことはできますか？

A. できない！



Q. 電動車いすでレバーなどの操作であれば動かすことはできますか？

A. できない！言葉で操作ができればいい。

Q. 今は、部屋のカーテンの開閉を同室の人がしてくれていますが、将来個室になったら、自分でできますか？

A. できない！やっぱり言葉で動いてくれたらいい。電動で…。



移動支援機器の提案

今日、高齢知的障がいの方が自分で車いすが使えないことを知りました。利用者は多様で、どれだけオーダーメイドにできるかがポイント。

フットサポート上げ忘れ
下げ忘れのかけ忘れなどで
転倒を防げる方法が
あれば



車いす音声操作
イメージ



壁などの距離を明確に、
壁に当たらないような
センサー付き、音か声
で警告



リクライニング車いすで
食事介助での誤嚥防止
姿勢保持できる機種の提供

リクライニングも顔を見ながらできる

車いすの姿勢が良いと
恐怖心を感じるセグウェイ
のような立つ姿勢で乗るの
が4%の人は



大学の先生でアメリカ製の
立位保持できる車いすを
使用

支援者側で困っている“あれこれ”

ユニットから食堂までの移動



人的コスト
自動運転が
あれば
GPS付き

扉が開け閉め
できない



音声で扉を
開けられれば

簡単な PC 入力できるものが欲しい音声入力
インドネシア人の職員もいるので外国語対応も
欲しい



排気支援 夜中のオムツ確認



あざわらねにしている

病気で車いす→高齢で車いすの操作の理解は難しい、自分でできない操作の理由
仕組み自体がわからない

アレクサが声かけて
カーテンを開けてくれる
朝の声かけもしてくれる



タイムラグが慣に合わない

転倒・転落センサーを使ってもリスクを
防げない。
高齢で機能低下になり、気をつけるよう
声かけするが、本人の動きがともなわない

聞こえの保障



小さいと目撃されない
ポケットに入れて
忘れてお蔵してしまおう
ヘッドホン
のような
補聴器が欲しい



健康センサー
精神の方はマットセンサーを
おさるとよけてしまおう

安全環境



102000円くらい
しましたトイレかも
1万1千円です



【交流の風景】



○ATAサテライト榎原

【座長】：増澤 高志 氏（ASD（自閉スペクトラム症）生活環境研究会）
【検討テーマ】：「ASD（自閉スペクトラム症）の人が必要とする支援機器を考える」
【参加者】：計21名（ニーズ側：10名、シーズ側：5名、事務局他：6名）
※会場及びオンラインにて参加いただいた。

【主な検討内容】：

ATAサテライト榎原では、ASDのお子さんがあるお母さまにご参加いただいた。お子さんは多くが成人し、作業所に務めている方が多くいた。様々な支援機器を使用し、周囲の理解を構築している方々である。

ASDは多様性があるものの、何かしらの感覚過敏（触覚、聴覚、視覚）をもっていることが多く、生活をしていく上で、大きな障壁になっていることであった。聴覚過敏においては、イヤーマフだけでは刺激の遮断が不十分な場合もあり、既存の機器だけで対応することが困難な場面がある声があった。また、使用している支援機器が故障してしまっても、メーカーの撤退や修理できるところが無いことへの不安の声も上がっていた。

パニックの事前検知についても議論された。パニックが起きる前には、自身の体に変化（冷たい、鼓動が速い等）がある場合もあり、一度、パニックになってしまうと親御さんでも手をつけられないことが多く、周りも大変だが、本人が一番つらく、パニックが起こる前に事前検知できるような機器があるとよいとのことであった。

その他、支援者とのコミュニケーションにおいてもこちらの想いが伝わらないこともあり、専用の連絡手段があるとわかりやすい。また、新しい支援者が入ると引継ぎがされていないことがあり、1から本人の説明をしなければいけない時があるとのことであった。

本人に合った、困りごとを支える支援機器の使用と共に、周知の障害の理解や支援がセットで初めて本人の自立や社会参加につながる必要があると考えた。

【議論の経過をイラストにしながら具体的な機器のイメージを検討した（抜粋）】



■ 重度障害の場合時計の文字盤を見るのは難しい
一日の時間の流れがわからない

今朝なのか夜なのか

タイマーセンサーで一日の時間を表示

朝ごはん
昼ごはん
夕ごはん

あと3分がわからない人でも理解できる

見てわかる機器

7時15分に出かける
ココクラブ
おもちやの時計
目的時間表示

現在の時間
本物の時計

確認することで出かける時間がわかる

ホワイトボード

「ちょっと」って「3分」でどれくらいを教えるために

お子様の学習要はでているがあまり使えないソフトデバイスさんの「yottey」がよいと思う

■ 開発側

自閉症用に一日の流れボリューム長さもでていた方がいいのか？

時間

6	7	8	9	10	11	12	1	2
---	---	---	---	----	----	----	---	---

食事
学校
お風呂
表示

文字が読めない人—絵文字での表示
写真だと簡単に表示できる

薬の種類、量の変化が示されれば

〇〇 → 〇

予定の書き込みもできる

● 自分の気持ちを伝えるアプリがあればいい。

午前中のお話を受けての意見・要望

聴覚過敏のためベットのパーテーション使用
ドアの開閉音、鳥の声で起きてしまう



パーテーションを設置すると朝まで休むことができるようになったが、
パネル自体が10kgと重く持ち運びができない。
持ち運びしやすい軽いものが欲しい。



感覚の調整と視覚支援音声の情報の調整が難しいイラストでは理解できるので、
視覚的に情報がわかるような（メモなど）相手に伝える機器が欲しい



支援者さんとのコミュニケーションこちらの思いがうまく伝わらないことも見える支援をラインなどでできなくはないが、いろんな通知が来てしまう専用の連絡手段のようなものがあると「yottey」さんのような形で連絡ができるものがあれば



優しい声かけが人によっては全く優しくない

新しい支援者さんが入ると
1から説明しなければいけないし、
引き継がれて行かない



施設との連絡の手段にラインが使えない
一当事者としては文字など表示できるライン
での連絡がわかりやすいが、法令でできない。



自閉症用コミュニケーションツールがあれば仕事時指示やお休みの連絡がしやすい。
(福祉業界がまだアナログ 電話 ファックス連絡が主流)



大事なところのみ
入るようなメール機能が
できるか



耳から入る情報
何が大切なのか? わかりにくい?
何が重要なのか?

- 視覚で見るのはわかりやすいが
文章の内容がおかしい時意味がわからず、トラブル発展しかねない、
支援者とのやりとりの行き違い、情報のずれがでないコミュニケーション
ツールがあればいいと思う。

読み取り
間違え



【交流の風景】



○ATAサテライト和歌山

【座長】：小林 大作 氏（株式会社アシテック・オコ）

【検討テーマ】：「医療的ケアが必要な方、子どもの可能性を広げる支援機器を考える
～困りごとの解決からやりたいことへの挑戦の一步まで～」

【参加者】：計51名（ニーズ側：30名、シーズ側：15名、事務局他：6名）
※会場及びオンラインにて参加いただいた。

【主な検討内容】：

ATAサテライト和歌山では、当事者、ご家族をはじめ、医師、看護師、保健師、リハ専門職、特別支援学校教諭、社会福祉士、介護支援専門員、行政機関職員等、様々な立場の方々にご参加いただき、医療的ケアが必要な方（児）において、特にコミュニケーション、移動・外出、災害対策、生活の中の具体的な困りごとという点について、議論を進めた。

現在、医療技術、テクノロジーの進歩によって、医療的ケアが必要な方（児）においては、療養生活に焦点を当てた支援機器でなく、生活に焦点を当てた機器開発が求められている。また、医療的ケアが必要なお子さんのコミュニケーションにおいては、成長のペース、伸び具合には個人差があり、個々の成長のペースに合わせたコミュニケーションの確立のための学習や、興味に合わせた学習を積み重ねていく仕組みが大切である。

移動・外出に関しては、医ケア児については、呼吸器や吸引機を積んでいるため、移動の面での困難や外出先でのトイレに関しても、ユニバーサルシートが自身に合わない場合もあり、シートを事前に車に装備しているとのことであった。災害対策においては、垂直避難できること、自宅に配備できる価格、女性でも操作可能、最優先で命が助けられるもの、という意見があがった。

中間ユーザー（医師、看護師、リハ専門職、教諭など）が当事者のニーズをしっかりと受け止め、細やかなニーズを蓄積して標準化し、メーカーへつなぎ合わせていくことが重要である。

ニーズを解決するのは支援機器ではなく、支援機器を使って人とコト（困りごと等）をミックスさせることが大切である。

【議論の経過をイラストにしながら具体的な機器のイメージを検討した（抜粋）】



家族が思う困りごと③



こんなことできないかな?①



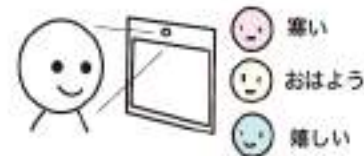
こんなこと出来ないかな?② ICT 活用関連

AI搭載の教育ソフト

使用する方の発達に応じたものが語まったソフト

文字を入力しコミュニケーションが
取れるような段階までのもの

意思表示の練習 表情から意思を読み取る



自分で作成したアバターが登場し相棒
になってくれる

入力デバイスはさまざまなものに対応



こんなこと出来ないかな?③

荷物の多い医療的ケア児は車いすを押すのも大変!



砂利道でもスムーズに通れる
ようなものが欲しい

こうならいいかな? 医療的ケア関係①

吸引器の進化

駆動時間の改善
小型化



画期的な進化を
望む

荷物が減ることになる

その他家族として

車椅子の軽量化 気軽にける支援機器の展示会 人工内耳のカラーバリエーション化
障害のある人でも楽しめるゲームアプリ、オンライン
安心して飲食(栄養剤注入やミキサー食注入)できる店が増えて欲しい
障害が重くとも、外出するし外出先では支援機器の利用は必須

家族が望む支援機器

利用する特性に合わせた支援機器のマッチング
支援機器を使いこなすため機器使用に精通した支援者が必要
時代やニーズに合わせた支援機器開発

【交流の風景】



○ATAサテライト熊本

【座長】：恒松 祐輔 氏（社会福祉法人つつじヶ丘学園）

【検討テーマ】：「知的障害者の意思決定の補助や意思表出を補助する支援機器について考える」

【参加者】：計10名（ニーズ側：1名、シーズ側：5名、事務局他：4名）
※会場及びオンラインにて参加いただいた。

【主な検討内容】：

ニーズ側では、（社福）つつじヶ丘学園で施設長をしている座長より、シーズ側は、eスポーツを通して高齢者及び障害者が多くの人とつながる支援をしている理学療法士、産業連携コーディネーター、地域でのモノづくりをされているカラクリ研究所に参加いただいた。

知的障害者のコミュニケーションにおいて、自身で意思表示をすることが難しいことがあり、受け手が理解できない場合も多い。また、本人が実際に体験していないことを説明されても理解することは難しく、本人の意図と反すると不安になったりパニックになったりする。

つつじヶ丘学園では、入所者の看取りまでおこなっており、入所者の高齢化も進む中、食事が思うように摂取できずに病院へ入退院を繰り返す場合もあり、胃瘻造設するかどうか、自宅と施設どちらに戻るか、命の選択を求められる場面がある。そういったなかで、日常・人生・命のそれぞれにおける意思決定を支援できる支援機器について議論を行った。

UDe スポーツのような知的障害者でも簡単に操作でき、意思を表出できることが可能な機器の開発・普及。その機器を活用し、遊びを通じて幼少期からの意思表出の機会を創出し、意思表出の選択肢を獲得する。訓練や実践を積み重ね、当事者の意思を育むような支援を受けることで、当事者自身の意思決定の機会に活用できるのではないかと。

【議論の経過をイラストにしながら具体的な機器のイメージを検討した（抜粋）】

意思決定での悩み

絵や写真動画を使って説明しても実際に体験していないことは理解が難しい

？はい ラーメン 病院 病院

ちこ ちこ ちん ちん ちん

家族の思いと、支援者の思いが違っていった場合に悩む

利用者の高齢化（入所施設・通所施設・グループホーム）頼れる家族がいらない

食事が入らない 胃瘻増設するか？
口からの摂取を望んでいるか？ **誤嚥性肺炎になりかねない**

利用者支援で困難の思う事は、利用者の言葉が自分に伝わらない時何を思っているのか分からない

わかりますか？

余命宣告

病院か施設か？介護施設か？

短期入所される方

本人は日頃の様子から自宅希望しているよう **不安な様子**

自宅に帰りたい？ **口が開けない** **決定は家族**

意思表示には個人差がある

一般の方とわからない意思表示できる方もいる（小学生高学年の知能 日常生活は差し支えないやり取り）
 苦手な分野がある一想像することが、ほとんどできない
数字上のことは理解できない—そういう時は笑って誤魔化している
わからないけど返事してしまう その場しのぎの返事しかできていない

意思表示ができる最低限 小学一年生くらいの知能

全く反応がわからない、何て言っているのかもわからない人も5年、10年支援している中で何となくこんなこと言っているんだらうなと窺い知れる

難しい内容を聞くという事はとても難しい

食事をどちらにするかの確認はできるが、実際ないものをイメージして考えることは難しい。

うどん **写真・動画で見せても匂い、質感はわからない**

一度経験した事

記憶に残る人

一度経験すると判断しやすくなる 沢山の経験をさせる


記憶に残らない人

理解力がつく

意思表示がeスポーツによって解決案になるのか？

ゲームによってコミュニケーション・リーダーシップが身に付く
新しい生き方ができる

今まで知的障害視点向けの開発がない。
eスポーツをヒントに
ニーズを拾い上げて
開発のヒントに



意思の積み上げ

今回はニーズの人の言葉、現場で何が必要なのかが
出ていない、シーズ側だけの意見しか出ていない


事例があると発言しやすい一例として食事、排泄時の意思決定

意思決定の優先順位は？ 人生亡くなる前の意思 余命喋れない動けない方
人生の意思決定 どうされたいか？ への気持ちへの配慮

終活していないから？ 前もって行えば 障害者の人は死期が
解決できるのでは 突然来る方もいる

若い時からの積み重ねが必要

何をどうされたいか、命の選択をどうするか
日頃の本人の意思決定の積み重ねが必要



それに伴う機械開発のものがあれば良いかと思っている。

④ 参加者アンケート結果

来場者を対象にアンケート調査を実施した。結果は以下のとおり。

○参加した日数 ※2日間にわたり開催した和歌山開催及び熊本開催のみ集計

選択肢	和歌山	熊本	全体
1. 1日目	3 (16%)	0 (0%)	3 (14%)
2. 2日目	6 (32%)	0 (0%)	6 (27%)
3. 両日	10 (53%)	3 (100%)	13 (59%)
合計	19 (100%)	3 (100%)	22 (100%)

○交流会をどのように知ったか

選択肢	小樽	樫原	和歌山	熊本	全体
1. 協会からの案内	6 (38%)	5 (50%)	1 (5%)	1 (33%)	13 (27%)
2. 協会ホームページ	0 (0%)	0 (0%)	1 (5%)	0 (0%)	1 (2%)
3. 座長からの案内	7 (44%)	0 (0%)	12 (63%)	0 (0%)	19 (40%)
4. 友人・知人からの紹介	1 (6%)	5 (10%)	4 (21%)	1 (33%)	11 (23%)
5. 産業振興団体等からの紹介	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33%)	1 (2%)
6. その他	2 (13%)	0 (38%)	1 (5%)	0 (0%)	3 (6%)
合計	16 (100%)	10 (100%)	19 (100%)	3 (100%)	48 (100%)

その他の回答として、「上司から」、「当事者の会から」等

○時間配分について

選択肢	小樽	樫原	和歌山	熊本	全体
1. 長い	3 (19%)	0 (0%)	1 (5%)	1 (33%)	5 (10%)
2. ちょうどよい	12 (75%)	9 (90%)	14 (74%)	2 (67%)	37 (77%)
3. 短い	0 (0%)	0 (0%)	3 (16%)	0 (0%)	3 (6%)
4. その他	1 (6%)	1 (10%)	1 (5%)	0 (0%)	3 (6%)
合計	16 (100%)	10 (100%)	19 (100%)	3 (100%)	48 (100%)

その他の回答として、「休憩が欲しい」、「開始時間を遅めにしてほしい」等

○今後も開催したいと思うか

選択肢	小樽	樫原	和歌山	熊本	全体
1. とても希望する	3 (19%)	5 (50%)	10 (53%)	1 (33%)	19 (40%)
2. 希望する	13 (81%)	5 (50%)	9 (47%)	2 (67%)	29 (60%)
3. どちらとも言えない	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
4. 希望しない	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
5. 全く希望しない	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
合計	16 (100%)	10 (100%)	19 (100%)	3 (100%)	48 (100%)

○参加後の感想について 自由記述 ※一部のみ抜粋

【ニーズ側】

- ・障害のある方に対して、ITなどの支援機器を通してサポートができる可能性を感じた。意思決定支援に役立てたい。
- ・ニーズを感じる意識をもっと育てたいと思った。いつものことだと当たり前になってしまい、「こんなのがあったらいいな」を忘れがちになっていた。シーズ側のお話を定期的に聞くことは重要だと感じた。
- ・現場で使用する機器について知識がある方ではなかったので勉強になった。機器の情報を知ることによって利用者さんが日々感じている問題や困りごとを解決することができるきっかけになると気づくことができた。利用者さんのお洋服を準備するロボットがあると嬉しい。
- ・身近な悩みを共有でき、希望が持てる2日間だった。
- ・普段は接する機会がないメーカー側の異業種の方やテクノエイド協会や厚労省の方などの意見などが聞けていい機会になりました。15日のみの参加でしたが16日も参加したかった。1回のみの開催ではもったいないと感じたので、また機会があればよりつながりが深まっていいのではないかと思った。
- ・和歌山という地域柄、保護者には希望があるものの、声を届ける機会がなく、企業とつながる機会が持て、みんなが希望を持てた会だったと思います。この火が消えないように、企業と私達、中間ユーザーと小規模でも座談会など行えると嬉しい。
- ・このような会に参加できていろいろな企業さんのアイデアや家族の方のお話を聞いたことに感謝している。一人で考えていても解決しないことが皆様の力を借りれば解決するかもしれないと思った。
- ・発表、パネル討論はとても良かった。家族として参加したがシーズ側の意見を聞くことができて大変勉強になったし、もっと聞きたいと思った。私たちのニーズを聞いていただけ

ることも大変ありがたく感じたし、今後も今回のような交流会を開催していただけることを願っている。

- ・このような機会に参加できたことに感謝している。学ぶ場、育つ場としての学校で、こんなだったらいいのになあと思う支援機器と生活を支え豊かにする支援機器を具体的にかつ一般的に考えることをしてみたいと思いました。本当にありがとうございました。

【シーズ側】

- ・ディスカッションにおいてニーズ側、シーズ側共に活発な議論がなされていた。ニーズ側から出た課題に対して、どのぐらい需要があるのか不明な部分が多く感じたため、数値的に需要の高さがわかれば、シーズ側のビジネス展開の指標になると感じた。
- ・ニーズの捉え方、潜在化していることは本当にそうだなと思った。今回は具体的なところになりすぎず良かったと思った。参加者が多かったこともあり、パネル討論が少し難しく、もう少し時間を長くして、グループワークにしても良かったかと思った。このような場が和歌山県になかったこともあり、今後もこのような枠組みを継続していけるようにしてもらえたら嬉しい。
- ・高齢知的障がい者の生活状況と介護者の大変さを知ることが出来た。ユーザーの方だけでなく、介助される支援者の仕事の改善に役立つ機器開発の視点も元ことが必要であると感じた。
- ・当事者及びご家族の方から活発なご意見を聞かせていただき、大変参考になった。感覚過敏に対しての知識を新にでき、本当に「目からうろこ」だった。ASD に対する理解をもっと広めて「人権」として取り組む社会をめざして行ってほしいと思う。福祉業界にもデジタル化に取り組んでほしい。
- ・普段接することがなかった介護の現場にて、創意工夫されていると感じた。日々開発されていく機器を有効に使い、高齢化を不安がるのではなく、その人なりのサポートを取り入れてそれぞれの人生を終えたらと考えた。各々に独自の仕様が必要な車椅子を早く具現化して、世の中に役立てたい。

⑤ 成果の発信、普及、達成度について

各会場にて議論された内容の取り纏めは、座長に一任することとし、ATAの終了以降もオンラインにて座長、テクノエイド協会、イラストレーターの3者で意見交換やイラスト修正等の場を数回設け、成果発表に備えることとした。

発信、普及に関しては、東京会場にて各4会場にて実施された成果発表の場を設けた。発表に使用したスライドは、協会HPよりダウンロードがいつでもできるようにした。また、成果発表は、東京会場のみ実施したため、会場に来場できなかった方や事業が終了後も、成果を視聴できるよう、講演の様子をアーカイブ化している。その様子は協会HPの「動画の部屋」にて公開し、地域での機器開発の普及及び促進、開発の喚起を促すこととした。

成果としては、厚生労働省で実施している、障害者自立支援機器等開発促進事業の応募へつなげることとしたが、応募までには至らなかった。

【動画の部屋】

<https://www.techno-aids.or.jp/gallery/list/?cat=5>



（6）交流会開催後のフォローアップの成果

○相談窓口の設置

専任の担当者を配置し、常時ニーズ側及びシーズ側の問い合わせに応じて、相談に応じた。また、交流会会場に来場が可能であれば、会場にて関係する機器の紹介や当事者団体などを紹介した。

○モニター評価等実施にあたっての支援・協力

今年度は、支援機器の開発、改良に係る意見交換やアドバイス、モニター評価等に協力いただける団体や施設等を募集し、登録できる仕組みを構築した。

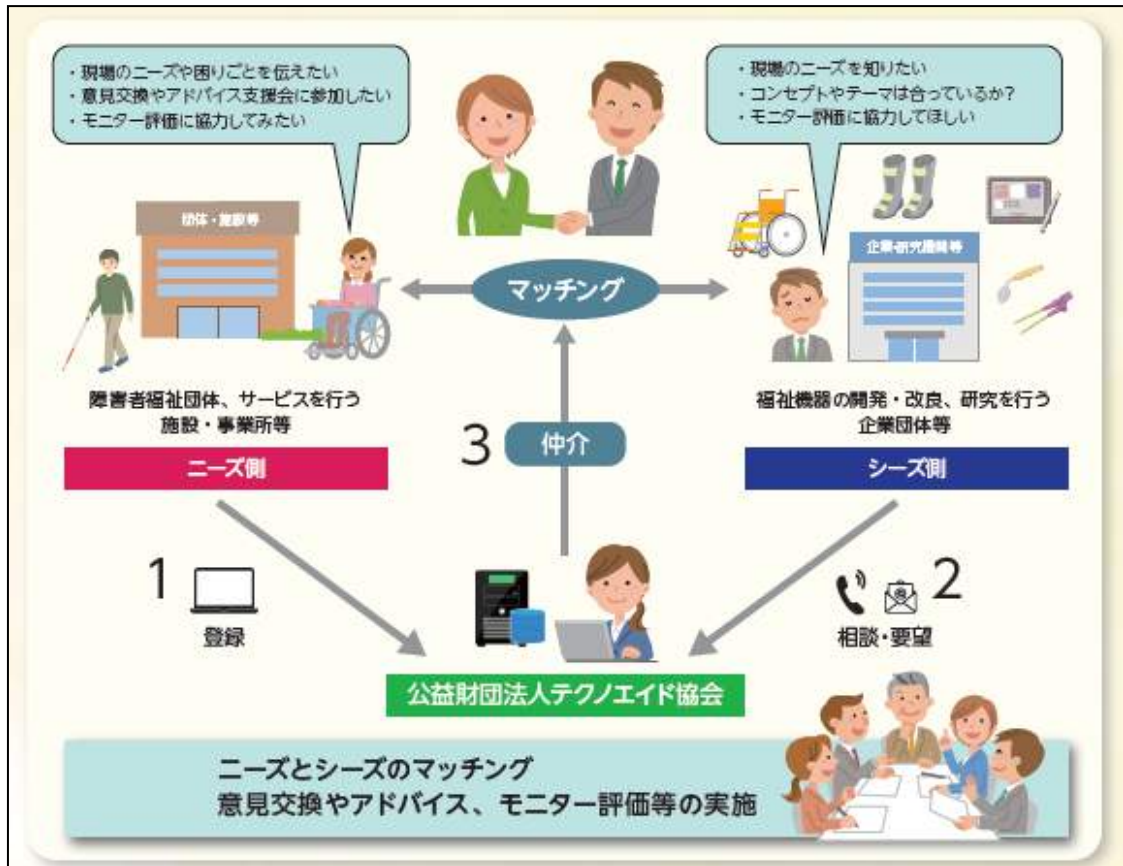
具体的には、障害者福祉の団体（支援団体や家族会等）、サービスを行う施設・事業所、病院、リハセンター、サービスを所管する行政、その他、支援機器開発の評価等に協力いただける機関をニーズ側として募集対象とした。開発企業をはじめとした、シーズ側からの要望（モニターを探している、評価を手伝ってほしい、ニーズを聞きたい等）をテクノエイド協会でお伺いし、相談・要望を登録したニーズ側の団体へご案内し、協会が仲介役となりマッチングを行った。

これにより、ニーズとシーズのマッチングを促進し、今後の機器開発・改良や交流会への出展等を促すこととした。。また、交流会出展企業にとどまらず、シーズ側より相談・要望があった場合には本システムに登録している団体等へ紹介するとともに、本システムを周知し、登録していただけるニーズ側の件数を増やしていくこととした。

※登録された機関は非公開としている。

【マッチングのイメージ、登録画面】

<https://www7.techno-aids.or.jp/bbsPage.html#/page/MonitorEntrance>



The screenshot shows the website interface for '福祉用具ニーズ情報収集・提供システム' (Welfare equipment needs information collection and provision system). The page title is '福祉用具ニーズ情報収集・提供システム'. There are three main buttons: 'グラフで見る' (View by graph), 'メール配信を登録する' (Register for email distribution), and 'モニター評価協力機関等の募集' (Recruitment of monitoring evaluation cooperation organizations, etc.). The 'モニター評価協力機関等の募集' button is highlighted with a red box. Below the buttons, there is a section for '新しいコメントや新製品（技術）、お知らせを投稿する' (Post new comments or new products (technology), notices). At the bottom, there are search filters for 'フリーワード' (Free word), '要望・アイデア・課題' (Requests, ideas, issues) with 629 items, '新製品・技術' (New products, technology) with 94 items, and 'お知らせ' (Notices) with 289 items. A search box and a keyword search section are also visible.

○意見交換会、アドバイス支援の実施

本交流会の成果を着実に支援機器の開発に繋げるため、出展企業等に対し開発改良中の機器について、意見交換会やアドバイスして欲しい内容等をテクノエイド協会が個別に伺い、想定するユーザーの団体及び等へ繋ぐこととした。

・募集件数： 4社 実施件数： 5件

【意見交換会、アドバイス支援 実施結果の概要】

No.	案件番号	機器名称	障害種別	シーズ側	ニーズ側
				応募企業	実施機関
1	05-01	移乗用ボード「ビージーボード」  	身体障害	株式会社ヴァイス	岐阜清流病院
【実施報告】 オンラインミーティングを通じ、用具の説明を行った。その後、本機器の貸し出しとなり、数か月、患者及びセラピストにてモニター試用評価を行った。 横移動が容易にでき、軽量で持ち運びも容易であるが、不安定さは否めなく、長さ調整ができないため、浴槽の大きさに合わせた設置ができない点などがあがった。より、安全に使用していくための検討内容とした。引き続き、継続してモニターを実施予定である。					
2	05-02	オゾンと水素同時生成微細気泡水电解器 	身体障害	株式会社アクアエコテック	岐阜清流病院
【実施報告】 オンラインミーティングを通して、医師、セラピストに同席いただき、本機器についてプレゼンテーションを実施。その後、本機器を貸し出すこととなり、医師の立ち合いのもと、評価を行っているところである。2名にて実施中であるが、本人からのヒアリングでは、徐々に症状が改善されていることを実感しているとのことであった。					
3	05-03	シリコン原料、樹脂加工品  	身体障害	株式会社ニッシリ	(社福)日本身体障害者団体連合会
【実施報告】 東京会場にて本製品について説明することが出来た。実際に利用者に試すことはできなかったが、本製品についてご理解いただくことができた。					
4	05-04	リハビリロボット RAKKUN 	身体障害	大友高行	(社福)日本身体障害者団体連合会 岐阜清流病院
【実施報告】 対面にて実施。 最低限保証すべき機能として(1)ユニバーサルに使えること、(2)操作性が簡便なこと、(3)患者さんの使用リスクが低いことが挙げられた。また手首および指の運動については腱固定作用(テノデーシスアクション)を考慮した運動が行えるようにすること等のアドバイスを頂けた。また、退院後の脳卒中当事者は自身の身体機能の低下を周りに見せたくないことから引きこもりがちになることから、リハビリへの参加が消極的になる事例もあるため、自宅での自主的な訓練用機器が求められていること、一方で高齢者の場合は骨粗しょう症等によって骨折リスクが増大していることの実例を頂けた。					

なお、ニーズ側としてマッチング先になっている「岐阜清流病院」は、前述のモニター評価等実施機関に登録された機関であり、シーズ側の要望確認した上で、マッチングが成立した。

○その他の成果

フォローアップの成果として、専門官と連携を取り、本交流会に出展している企業等において、開発促進事業の応募につながっているかどうかを確認した。

結果、令和6年度の応募において、**2社**が開発促進事業へ応募しているとのことであった。また、今年度の出展者ではないが、過去に出展した企業や交流会に来場した企業が**3社**応募していることを確認した。交流会を通じて、開発促進事業へつながることを確認した。

(7) ニーズとシーズの情報収集発信の結果

① ニーズの情報発信

昨年に引き続き、本交流会の企画委員でもある障害当事者団体・支援団体より、インタビュー動画の発信を行った。本動画は、Web開催期間中はいつでも視聴可能としており、交流会閉会後も視聴できるよう、「動画の部屋」に集約した。引き続き、企画委員の当事者団体・支援団体には協力いただくとともに、他の当事者団体からのニーズを収集し、ニーズの発信を高めていくこととした。

インタビュー動画の主な内容は以下の通り、

団体紹介、支援機器の利用状況、困りごとや課題・要望、機器開発に携わった例、今後の機器開発に対する期待、団体として開発企業に対し協力できること 等

【動画の部屋】再掲

<https://www.techno-aids.or.jp/gallery/list/?cat=5>

② 福祉用具ニーズ情報収集・提供システムの活用

ニーズとシーズのマッチングを効果的に実施するため、本システム「福祉用具ニーズ情報収集・提供システム」を活用した。障害者、ご家族、介助者、開発企業より支援機器開発に係る情報の収集、発信を行った。また、交流会開催のお知らせや助成金に係る助成制度の発信もおこなっており、厚生労働省をはじめとした開発促進事業やNEDOやNICTの助成金事業募集についても投稿する場を提供した。

本システムは、平成22年より協会にて運用しているが、運用開始からのシステムのイメージを一新し、リニューアルした。

お知らせ等を含め、**48件**の投稿があった。

【福祉用具ニーズ情報収集・提供システム投稿件数】

<https://www7.techno-aids.or.jp/>

令和6年2月末	要望・課題 アイデア等	新製品 技術	お知らせ	合計
投稿件数	9件 (7件)	13件 (5件)	26件 (16件)	48件 (28件)

※()は昨年度の実績を示す

【リニューアルした実際の投稿内容】

福祉用具ニーズ情報収集・提供システム

得意のある方や介助される方（家族や介護、リハビリ関係者など）から、福祉用具に関する要望やアイデア、日常の課題などをお聞かせし、実用的な福祉用具の研究開発に繋がります。詳しくはこちら

グラフで見る

投稿されたコメントを「キーワード別」、「性別別」、「投稿時期」、「新製品発表」などのグラフで見ることができます。

メール配信を登録する

メールが自動配信される方や、お寄せいただいた「キーワード（文章）」が投稿されるたびに、新製品のお知らせメールも届きます。

[おメール配信を受け取る](#)

モニター評価協力機関等の募集

研究センター等として新たな機関に対して、モニター評価やアドバイスを依頼したいという機関（施設や事業者など）は、ここから募集していただく。

新しいコメントや新製品（技術）、お知らせを投稿する

フリーワード

検索

キーワード検索

検索

項目

キーワード

- 食べる 71
- 寝る 60
- ベッドからの立ち上がり 65
- 移動 71
- 室内の移動 111
- 衣服の着脱 72
- 身体的な発生 66
- 器具やセンサー 61

要望・アイデア・課題
626件

新製品・技術
94件

お知らせ
288件

要望・アイデア・課題
福祉用具販売の品目について

キーワード：福祉用具/器具/福祉用具/福祉用具/福祉用具
投稿：匿名希望 (2024-02-23 09:57:48 / No.1071 / 大宮市)

認知症や認知症という名称は利用者様や家族様に誤解や勘違いは無い印象は強けなく不適切と捉えられるケースもあります。
見守りセンサーや一人歩き防止機器など名称の変更を検討してもいいのではないかと考えます。

コメントする
お気に入りする (0)

利用規約 | 通報 | この投稿には、他のユーザーがコメントすることがあります。 [この投稿を報告する](#)

要望・アイデア・課題
白濁症（検査過敏）専用のイヤーマフの開発希望

キーワード：福祉用具/器具/福祉用具/福祉用具/福祉用具
投稿：匿名希望 (2023-12-04 15:56:23 / No.1069 / 千葉県)

2023年7月に聴覚過敏専用のイヤーマフの開発希望で投稿しました。日常生活に苦手な音が多く急に響く大きな音や声を感じたり、音や音がある場所ではパニックをおこしてしまう状態ですイヤーマフが無いと外出できませんので使用しています。具体的には、バイクの走行時のマフラー音、建設工事現場の作業音やドリルや電機音、風船が膨らむ音、こどもの泣き声、緊急車両のサイレンなどです。聴覚過敏を併発して日常生活でパニックになることを予防する目的でイヤーマフを使用します。多くの音の特性は音の遮断効果が低くまたうるさい。(音の遮断効果はほとんどない)聴覚過敏専用と謳われているイヤーマフでも音の遮断効果が低くパソコンの打鍵音、全て遮断。

コメントする
お気に入りする (0)

フリーワード

検索

キーワード検索

検索

項目

キーワード

- 食べる 71
- 寝る 60
- ベッドからの立ち上がり 66
- 移動 72
- 室内の移動 112
- 衣服の着脱 72
- 身体的な発生
- 器具やセンサー

要望・アイデア・課題
626件

新製品・技術
94件

お知らせ
288件

新製品・技術
「やわらかブーツ」をご紹介します

キーワード：福祉用具/器具/福祉用具/福祉用具/福祉用具
投稿：studio kuku 眞柳ゆづ (2024-02-20 15:46:15 / No.1068 / 東京都)



こんにちは。お嬢のオーダー、企業訪問をしているstudio kukuの眞柳です。
今回は「やわらかブーツ」をご紹介します。

みなさんは靴をどのように履き分けていますか？ 靴とのコーディネートや外出目的、外出先、そしてお天気などでしょうか。

今回、二分骨格による手足運動障害があり、ふたは足下保護具を併用して歩いています外出される方からご相談をいただきました。
通靴などのソックスした家族との外出では器具を外して出がけまそうなのですが、季節の変わり目と時期が経つうちに当たって痛みがでるそうなのです。

(8) 開催結果及びアンケート結果

① Web開催の結果

(令和6年1月31日時点の集計結果)

公開期間(4か月)	令和5年10月1日(日)～ 令和6年1月31日(水)
交流会トップアクセス数	18,765回
Web交流プラットフォーム アクセス数	13,950回

※昨年のWeb交流プラットフォームアクセス数は、12,951回

出展者数	104社・団体
------	---------

※障害当事者・支援団体、関係団体を含む

出展者個別ページ	閲覧回数
総アクセス数	5,625回
平均	54.1回
中央値	46回
最高	361回
最低	17回

掲示板	投稿回数
総数	4件

※4件の内、出展者の発信3件を含む

問い合わせフォーム	回数
総数	25件
内訳	
オンラインで顔を合わせて話したい	6件
詳細な説明が聞きたい	3件
ニーズ(要望や課題など)を伝えたい	3件
資料が欲しい	3件
機器について質問したい	2件
その他	8件

※「その他」の内容には、企業から障害当事者団体へのニーズ確認や意見交換の依頼、また、企業とシーズ側との共業についての意見交換依頼などであった。

② 会場開催（大阪、東京）の結果

交流会専用サイトにて事前登録の実施を推奨とし、事前登録会場では、名刺や受付票に記載してご来場いただくこととした。

○来場者数と内訳

	来場者(使う人・作る人)	出展者	合計(昨年)
大阪会場	346	174	520(338)
東京会場	396	271	667(419)
合計	742	445	1187(754)

○来場者の使う人、作る人の内訳

	来場者 使う人	来場者 作る人	合計(昨年)
大阪会場	201(118)	145(94)	346(212)
東京会場	184(131)	212(180)	396(311)
合計	385(249)	357(274)	742(523)

③ 会場開催（大阪、東京）のアンケート結果

a. 来場者アンケート調査結果 【会場別】

○アンケートの回答件数と回収率 大阪会場 n=346、東京会場 n=396

会場	回答件数	回収率
大阪会場	99件	28.6%
東京会場	75件	18.9%
合計	174件	

○基本情報

選択肢	大阪	東京	全体
一般企業（今後、支援機器の開発を目指す企業を含む）	23(23.2%)	24(32.0%)	47(27.0%)
障害者家族	10(10.1%)	5(6.7%)	15(8.6%)
障害者	12(12.1%)	9(12.0%)	21(12.1%)
研究機関・団体	7(7.1%)	7(9.3%)	14(8.0%)
学校・教育関係者	5(5.1%)	4(5.3%)	9(5.2%)
医療関係者	5(5.1%)	4(5.3%)	9(5.2%)
施設関係者	16(16.2%)	4(5.3%)	20(11.5%)
支援機器開発企業	3(3.0%)	6(8.0%)	9(5.2%)
行政	3(3.0%)	6(8.0%)	9(5.2%)
その他	11(11.1%)	4(5.3%)	15(8.6%)
無回答	4(4.0%)	2(2.7%)	6(3.4%)
合計	99(100%)	108(100%)	174(100%)

その他には、「コンサルタント」、「ボランティア」、「介護事業所」等。

○開催の情報収集元について（複数回答）

大阪：n=99、東京：n=75

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	テクノエイド協会からの案内	42 (39.6%)	30 (39.5%)	72 (39.6%)
2	テクノエイド協会のホームページ	8 (7.5%)	6 (7.9%)	14 (7.7%)
3	所属する障害団体からの案内	3 (2.8%)	5 (6.6%)	8 (4.4%)
4	経済振興団体からの案内	0 (0.0%)	2 (2.6%)	2 (1.1%)
5	所属する職能団体からの案内	3 (2.8%)	4 (5.3%)	7 (3.8%)
6	自治体などからの案内・広報誌など	4 (3.8%)	2 (2.6%)	6 (3.3%)
7	友人・知人からの紹介	19 (17.9%)	18 (23.7%)	37 (20.3%)
8	新聞・テレビ・ラジオなど	6 (5.7%)	2 (2.6%)	8 (4.4%)
9	その他	19 (17.9%)	7 (9.2%)	26 (14.3%)
	無回答	2 (1.9%)	0 (0.0%)	2 (1.1%)
	合計	106 (100%)	76 (100%)	182 (100%)

※その他には、「メール」、「インターネット」、「バリアフリー展より」、「職場の案内」等。

○交流会来場の目的について（複数回答）

大阪：n=99、東京：n=75

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	機器の閲覧や体験をしながら意見交換を行ったかった	61 (55.0%)	51 (66.2%)	112 (59.6%)
2	普段困っていることについて相談したかった	8 (7.2%)	7 (9.1%)	15 (8.0%)
3	特定の企業または団体に対して直接伝えたいことがあった	7 (6.3%)	2 (2.6%)	9 (4.8%)
4	具体的に作って欲しい要望やアイデアがあり、企業に伝えなかった	11 (9.9%)	4 (5.2%)	15 (8.0%)
5	その他	16 (14.4%)	10 (13.0%)	26 (13.8%)
	無回答	8 (7.2%)	3 (3.9%)	11 (5.9%)
	合計	111 (100%)	77 (100%)	188 (100%)

※その他には、「情報収集のため」、「出展者との交流」、「アイデアの参考」等。

○交流会の満足度について

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	大変満足している	46 (46.5%)	28 (37.3%)	74 (42.5%)
2	ある程度満足している	41 (41.4%)	41 (54.7%)	82 (47.1%)
3	どちらとも言えない	9 (9.1%)	6 (8.0%)	15 (8.6%)
4	あまり満足していない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
5	全く満足していない	1 (1.0%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)
	無回答	2 (2.0%)	0 (0.0%)	2 (1.1%)
	合計	99 (100%)	75 (100%)	174 (100%)

○来年も参加したいと思うか

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	ぜひ参加したい	45 (45.5%)	35 (46.7%)	80 (46.0%)
2	参加したい	36 (36.4%)	32 (42.7%)	68 (39.1%)
3	どちらともいえない	16 (16.2%)	7 (9.3%)	23 (13.2%)
4	参加したくない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
5	全く参加したくない	1 (1.0%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)
	無回答	1 (1.0%)	1 (1.3%)	2 (1.1%)

	合計	99 (100%)	75 (100%)	174 (100%)
--	----	-----------	-----------	------------

b. 来場者アンケート調査結果 自由記述

○来場者アンケート『どのような交流ができたか』（自由記述） ※一部のみ抜粋

【大阪会場】

- 5社と技術相談ができた。
- 患者さんに使いやすいものがあるか交流できた。
- 実際に機器に触れることにより新しい発見ができた。
- 使われている技術や現状について教えてもらい、今後何かあれば協力できるよう、つながりをつくることが出来た。
- Web上の情報だった機器を具体的に聞いた。
- 知らなかった機器に出会い、困りごとの解決につながった。

【東京会場】

- 同様の問題意識を持っている人と意見交換できた。
- 目的のものを見つけたときもう少し改良してほしいこと。
- 自社の開発に活かせるような技術があった。
- 新しい機器や支援の最新情報が得られた。
- 障害者団体、メーカーとディスカッションできた。
- 機器の体験ができた。

c. 出展者アンケート調査結果 【会場別】 質問項目を抜粋

○アンケートの回答件数

会場	回答件数
大阪会場	60件
東京会場	84件
合計	144件

一部を除き、出展者にはアンケートの提出を必須とした。

○アンケートの回答件数

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	過去すべて参加している	10 (16.7%)	11 (13.1%)	21 (14.6%)
2	過去5度以上参加している	8 (13.3%)	10 (11.9%)	18 (12.5%)
3	過去4度参加している	1 (1.7%)	3 (3.6%)	4 (2.8%)
4	過去3度参加している	2 (3.3%)	6 (7.1%)	8 (5.6%)
5	過去2度参加している	2 (3.3%)	5 (6.0%)	7 (4.9%)
6	過去1度のみ参加している	14 (23.3%)	15 (17.9%)	29 (20.1%)
7	今回初めて参加した	23 (38.3%)	34 (40.5%)	57 (39.6%)
	合計	60 (100%)	84 (100%)	144 (100%)

○過去の交流会について、その後の機器開発や団体の活動において有意義な交流ができたか
(今回は初めて参加した出展者は除く)

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	大変参考になった	19 (51.4%)	27 (54.0%)	46 (52.9%)
2	ある程度参考になった	16 (43.2%)	21 (24.0%)	37 (42.5%)
3	どちらともいえない	2 (5.4%)	2 (4.0%)	4 (4.6%)
4	あまり参考にならなかった	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
5	参考にならなかった	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	合計	37 (100%)	50 (100%)	87 (100%)

○国や研究開発法人等の開発補助事業に応募してみたいと思ったか

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	是非、応募したい(応募を検討したい)	13 (21.7%)	24 (28.6%)	37 (25.7%)
2	応募してみたい(応募を検討してみたい)	25 (41.7%)	24 (28.6%)	49 (34.0%)
3	どちらともいえない	21 (35.0%)	32 (38.1%)	53 (36.8%)
4	補助事業に関心はない	1 (1.7%)	4 (4.8%)	5 (3.5%)
	合計	60 (100%)	84 (100%)	144 (100%)

○交流を行った概ねの人数

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	20人未満	9 (15.0%)	16 (19.0%)	25 (17.4%)
2	20人～50人未満	29 (48.3%)	41 (48.8%)	70 (48.6%)
3	50人～100人未満	18 (30.0%)	22 (26.2%)	40 (27.8%)
4	100人以上	4 (6.7%)	5 (6.0%)	9 (6.3%)
	合計	60 (100%)	84 (100%)	144 (100%)

○交流会の満足度

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	大変満足している	33 (55.0%)	41 (48.8%)	74 (51.4%)
2	ある程度満足している	22 (36.7%)	37 (44.0%)	59 (41.0%)
3	どちらとも言えない	3 (5.0%)	5 (6.0%)	8 (5.6%)
4	あまり満足していない	1 (1.7%)	1 (1.2%)	2 (1.4%)
5	全く満足していない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	無回答	1 (1.7%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)
	合計	60 (100%)	84 (100%)	144 (100%)

○来年の出展について

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	是非出展したい	34 (56.7%)	48 (57.1%)	82 (56.9%)
2	出展したい	19 (31.7%)	28 (33.3%)	47 (32.6%)
3	どちらとも言えない	5 (8.3%)	8 (9.5%)	13 (9.6%)
4	出展したくない	1 (1.7%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)
5	全く出展したくない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	無回答	1 (1.7%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)
	合計	60 (100%)	84 (100%)	144 (100%)

○交流会の参加方法について

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	会場参加	28 (46.7%)	27 (32.1%)	55 (38.%)
2	Webのみ参加	1 (1.7%)	3 (3.6%)	4 (2.8%)
3	会場及びWebに参加	28 (46.7%)	53 (63.1%)	81 (56.3%)
4	その他の参加方法	2 (3.3%)	1 (1.2%)	3 (2.1%)
	無回答	1 (1.7%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)
	合計	60 (100%)	84 (100%)	144 (100%)

○出展者アンケート『交流の具体的な内容や成果について』（自由記述） ※一部のみ抜粋
【大阪会場】

- 利用者ニーズが直接聞けたこと、さまざまな人と話をすることで、開発すべき方向性を整理できたこと。
- 自治体や障害者団体との連携へのアドバイスをいただき、今後の展開についての知見が深まった。
- 理学療法士の方や障害者団体の方からリアルな問題点をお聞きすることが出来、今後の方針策定に非常に参考になった。具体的な連携に関するオファーも複数頂いている。
- 製品の販売方法や価格、機能の要望などについて患者団体、医療関係者などから意見をいただいた。
- 弊社製品の説明を聞き、また実際に体験を頂いたことで、現場に持ち帰って広めたいというお話が一番多かった。

【東京会場】

- 弊社は脊髄損傷専門として今までやってきたが、今回脊損に限らず他の疾患の方からの情報も沢山得られ、大変有意義な時間となった。
- 出展社同士の問題点、課題点などを共有できた。また、今後の開発に向けての協力会社が開拓できた。
- 補助金情報をえられた。
- 弊社取扱機器を使用しての勉強会の開催依頼やデモ依頼が入ることとなった。
- 今後の開発品についてのモニター評価協力候補先が探索できた。
- 大学の附属病院にモニター実施の可能性がでてきた。
- ビッグサイトで開催される展示会と違い、横の交流も多くでき大変有意義でした。もちろん、お越しいただく販売会社やエンドユーザー様からも貴重なご意見をいただきました。

E. 考察及び結論

(1) 成果等について

昨年度に引き続き、大阪及び東京に会場開催、Web開催（4か月間）と実施した。

Web開催では、プラットフォームのアクセス数は13,950回（昨年度12,951回）となり、昨年度よりも微増の結果となった。また、「問い合わせフォーム」は、25件と数は少ないものの、内訳を見るとニーズとシーズのマッチングにとどまらず、シーズとシーズのマッチングにも利用されていることを確認した。引き続きこのようなWeb上でも利用できる場を提供することは必要であると考えます。

会場開催では、出展者において、日本リハビリテーション工学協会及び国立障害者リハビリテーションセンターと連携し、福祉機器コンテストの受賞作品の展示、研究開発機器の展示を行う場を設けることとした。また、今年度はトヨタ自動車、ダイハツ工業といった大手企業も参加しており、出展者の4割以上が新規の出展者であった。

令和6年度の開発促進事業の応募において、交流会出展者で2社の応募があり、その他、過去に出展した企業や交流会に来場した企業からも3社応募していることを確認した。今年度はWeb及び会場にて厚生労働省をはじめ、開発支援機関から助成金事業の講演を設けたこともあり、応募につながったのではないかと考えられる。また、NEDOやNICTにおいても、企業から助成金事業の問い合わせがあったことを確認した。今後は、引き続き、当該機関と連携を強固にし、マッチングから開発助成の募集の流れを進めていきたい。

併催イベント（講演）においては、費用対効果を鑑み、昨年実施していたZOOMを利用したリアルタイム配信は実施せず、会場での講演とした。その結果、協会職員が出展者と来場者、出展者と出展者のマッチングに携わる時間が増えた。また、講演は演者の了承を得た上、録画を行い「動画の部屋」にて掲載し、交流会が終了しても継続して視聴できるようアーカイブ化を行った。

出展者を含めた来場者数は、大阪520名（昨年度338名）東京会場で667名（昨年度419名）であった。前年度よりも来場者数は増加し、特に大阪会場にてニーズ側の来場が多くみられた。その理由としては、大阪で開催されている「バリアフリー展」の事務局を通じて、開催周知をSNS及び一斉メールの依頼を実施したことであると考えられる。

地域交流会（ATAサテライト）では、4会場（小樽、樺原、和歌山、熊本）で実施した。開催地によって参加者は様々であるが、和歌山開催では、オンライン参加を含め、総勢51名となり、医療従事者をはじめ、支援学校経論、介護支援専門員、行政職員等に参加いただき、様々な視点から議論が展開された。

フォローアップとして、当協会では交流会期間のみに捉われず、ニーズ側、シーズ側の問い合わせに対応しているところであるが、協会独自で実施している、意見交換会、アドバイス支援に関しても、5件のマッチングが成立し、交流会開催期間から終了後も実施され、機器の貸し出し、専門職によるモニター評価などが継続して実施されている。

(2) 考察、結論（今後の課題と解決策について）

今後の課題として、当事者をはじめとしたニーズ側の方々に多く来場していただくことが重要である。一つの方策としては、協会専用のSNS（Facebook、X、Instagram等）を開設することである。協会の活動をはじめ本交流会、地域交流会の実施について認知していただき、継続的に発信していくことが重要とされているため、時間をかけてフォロワーを増やしていきたい。もう一つは、PR Timesといったプレスリリース配信サービスである。これは、有料版と無料版あるがマスコミや個人向けに開催周知や作成した交流会の紹介動画を活用し、交流会の啓発を合わせて実施することで、障害者団体等に入

会していない障害者やご家族、医療福祉工学関係の学生などにもいきわたる可能性がある。現在実施している、資料送付や関係者への周知依頼に加え、新規の来場者の掘り起こしにつながるのではないかと。費用対効果も含めて活用及び検証していきたい。

地域交流会（ATAサテライト）において、地域のニーズ側及びシーズ側が参集し、議論を重ねているところであるが、参加者のアンケート（特にニーズ側）から、「このような取り組みがもっとあるとよい」、「継続して実施してほしい」などの声が多く上がった。また、現在は各地域1回のみの実施となっているためその後、継続的に地域において議論が行われているかどうかは不明である。継続的に開催をすることで、より1回目で議論しきれなかった具体的な支援機器の想起やイメージをより膨らませること、参加者へのモチベーションへの向上にもつながるのではないかと。継続して参加者のアンケートを実施し、通年で実施が可能か検討していきたい。

マッチングを促進させる取り組みとして、今年度新たにモニター評価機関等を登録できる仕組みを構築した。これは、障害者福祉の団体（支援団体や家族会等）、サービスを行う施設・事業所、病院、リハセンター、サービスを所管する行政、その他、支援機器開発の評価等に協力いただける機関をニーズ側として募集している。現在の登録件数は少ないが、今年度の意見交換会・アドバイス支援の募集において、従来、ニーズ側は企画検討委員の所属する団体等へ案内をしていたところであるが、モニター評価機関等へ登録している機関へシーズ側の案内したところ、マッチングが成立した。このように、今後は、モニター評価機関等へ登録の呼びかけを本格的に実施し、ニーズとシーズのマッチング、モニター評価等の実施を促進することとしたい。

II. 別添資料

A. 交流会関係資料

B. 併催イベント講演資料

- (1) 出展企業等募集要項
- (2) 交流会チラシ
- (3) 公式パンフレット
- (4) 地域交流会（ATAサテライト）チラシ
- (5) アンケート用紙

令和5年度
ニーズ・シーズマッチング強化事業
事業報告書

令和6年4月	発行
発 行 者	公益財団法人テクノエイド協会
	〒162-0823
	東京都新宿区神楽河岸1番1号 セントラルプラザ4階
	TEL 03-3266-6883 FAX 03-3266-6885
